June 2025 NHK Symphony Orchestra, Tokyo 99th NHKSO TOKYO

2025年6月定期公演 Aプログラム 指揮者変更のお知らせ

本公演の指揮者、ウラディーミル・フェドセーエフ氏は、体調不良により来日を見合わせることとなりました。代わりまして6月定期公演Bプログラムに出演する、フアンホ・メナがあわせて指揮を務めます。

フェドセーエフ氏とN響の共演を楽しみにされていたお客様にはまことに申し訳 ございませんが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

2025年6月定期公演 Aプログラム(第2039回)

NHKホール

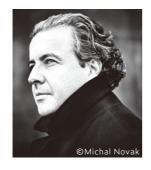
6月7日(土)開演 6:00pm 8日(日)開演 2:00pm

指揮:フアンホ・メナ

ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*

リムスキー・コルサコフ/歌劇「5月の夜」序曲 ラフマニノフ/パガニーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー/交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」

指揮:フアンホ・メナ



スペインとフランスをまたいで位置し、独自の文化を育むバスク地方。その中心都市のひとつ、スペイン側のビトリア・ガステイスに生まれる。地元の音楽院で学んだ後、マドリード王立音楽院でエンリケ・ガルシア・アセンシオに指揮を師事。卒業後ドイツに渡り、セルジュ・チェリビダッケから8年間にわたり薫陶を受けた。1999年、バスク地方を代表するオーケストラ、ビルバオ交響楽団の首席指揮者兼芸術監督に就任。以後ジェ

ノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場およびノルウェーのベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、マンチェスターのBBCフィルハーモニックのチーフ・コンダクター、シンシナティ5月音楽合唱祭のプリンシパル・コンダクターを歴任する。またベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、シカゴ交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴ

ランド管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、フィラデルフィア管弦楽団など世界各地の著名オーケストラにも客演を重ねている。N響の舞台にはこれまで、2017年1月、2021年1月に登場。3度目の共演となる2025年6月、メナはAプログラムでラフマニノフとチャイコフスキーを組み合わせたロシア・プログラムを、Bプログラムでブルックナー《交響曲第6番》などを指揮する。

ウラディーミル・フェドセーエフからのメッセージ

日本の親愛なる友人のみなさまへ

日本を長く愛してきました。そしてこの素晴らしい国でのツアーは、生涯忘れがたい 喜びでした。そのすべてが私の記憶にとどまり続けています。

温かい日本の聴衆のみなさまに深く感謝いたします。そして卓越したオーケストラの 鋭敏な音楽家たちと共に演奏できたことも大きな名誉でした。そのすべてが音楽家 の私にとって、素晴らしい贈り物でした。

私は今回のコンサートを心待ちにし、偉大な美に満ちあふれた音楽をみなさまと 分かち合うために、指揮する準備を進めてきました。愛する聴衆と同僚のみなさまの ご期待に添えず、まことに申し訳ございません。

残念ながら体調が万全でなく、今回は日本に向かうことができません。

お会いできないのは本当に残念です。みなさまを心から愛し、みなさまに思いを 馳せています。近い将来にお目にかかり、偉大な音楽を共に分かち合えることを 願っています。

ウラディーミル・フェドセーエフ

Despociel

Change of Conductor for June 2025 Subscription Program A

Vladimir Fedoseyev, who was to conduct the concerts, will not be able to visit Japan due to health reasons. Therefore, Juanjo Mena, who has been scheduled to conduct Program B, will also take the baton for Program A. The program and the rest of the artists remain the same.

We apologize to those who were looking forward to the collaboration of the NHK Symphony Orchestra and Mo. Fedoseyev, but your kind understanding is highly appreciated.

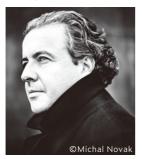
June Subscription Program A (No. 2039)

Saturday, June 7, 2025 6:00pm at NHK Hall Sunday, June 8, 2025 2:00pm at NHK Hall

Conductor: Juanjo Mena Piano: Yulianna Avdeeva*

Rimsky-Korsakov / May Night, opera - Overture Rakhmaninov / Rhapsody on a Theme of Paganini, Op. 43* Tchaikovsky / Symphony No. 6 B Minor Op. 74, Pathétique

Juanjo Mena, conductor



Juanjo Mena was born in Vitoria-Gasteiz, one of the central cities on the Spanish side of the Basque Country, which straddles Spain and France, and has developed a unique culture. He began his music studies at a local conservatory, then studied conducting with Enrique García Asensio at the Madrid Royal Conservatory. After graduation, he went to Germany to study under the tutelage of

Sergiu Celibidache for eight years. In 1999, he was appointed Artistic Director and Principal Conductor of the Bilbao Symphony Orchestra, a leading orchestra in the Basque Country. After that, he continuously served as Chief Guest Conductor of the Orchestra del Teatro Carlo Felice in Genoa, Principal Guest Conductor of the Bergen Philharmonic in Norway, Chief Conductor of the BBC Philharmonic (in Manchester), and Principal Conductor of the Cincinnati May Festival while

guest-conducting the world's renowned orchestras, including the Berliner Philharmoniker, the Gewandhausorchester Leipzig, the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, the Chicago Symphony Orchestra, the New York Philharmonic, the Cleveland Orchestra, the Los Angeles Philharmonic, and the Philadelphia Orchestra. He worked with the NHK Symphony Orchestra in January of 2017 and 2021, and June 2025, which is his third appearance with the orchestra, he will conduct Program A, a Russian program combining Rakhmaninov and Tchaikovsky, as well as Program B, which includes Bruckner's 6th Symphony.

Message from Vladimir Fedoseyev

My dear friends in Japan,

My love for Japan has a long history and I would love to say and to share with you that every tour in your wonderful country in my life was unforgettable pleasure for me. All stays in my memory always. I deeply appreciate the warm Japanese audience and the sensitive musicians from your excellent orchestras, that I'm honored to work with. Everything was such a wonderful gift for me as a musician. I've been looking forward to the concerts this time as always, preparing to conduct the music full of the great beauty which I wanted to share with you! I'm terribly sorry to disappoint my beloved audience and colleagues, however unfortunately my health is not ready and can not let me go this time. It's so sad I can not see you but I love you and think about you. Wish we could meet you and share great music together in near future.

Sincerely yours,

Vladimir Fedoseyev

B. Degoed



終演時のカーテンコールを 撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。 SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。 ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、 周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.

When you share the photos on social media, please add #nhkso.

Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が 「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.







インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットで アンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、 N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。 ご協力をお願いいたします。

詳しくは61ページをご覧ください



こちらの QRコードから アンケートページへ アクセスできます

https://www.nhkso.or.jp/

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯雷託

時計のアラーム等は必ずお切りください

Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、 物音が出ないようご配慮ください

Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど 他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください Do not disturb others by overly swaying your body.

改新年の仕冊子自味には



発熱等の体調不良時には ご来場をお控えください

Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください

Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場は ご遠慮ください

Please refrain from entering or leaving your seat

during the performance.



適切な手指の消毒、 咳エチケットにご協力ください

Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)

Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているか ご確認ください

Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、 周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします

When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS

JUNE 2025



- 3 「N響100年記念 個人サポーター」の募集について
- 5 特集 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト2024-25ファン投票受付中
- 10 「公演プログラム] Aプログラム
- 16 「公演プログラム Bプログラム
- 21 [公演プログラム] Cプログラム
- 27 [シリーズ] **N響百年史** | 第56回(最終回) | 片山杜秀 財団法人日本交響楽団の誕生、そして敗戦
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 39 2025年9月定期公演のプログラムについて――公演企画担当者から
- 41 2025-26定期公演プログラム
- 47 チケットのご案内(定期公演2025年9月~2026年6月)
- 48 特別公演/各地の公演
- 56 特別支援·特別協力·賛助会員
- 60 曲目解説執筆者/N響の出演番組
- 61 みなさまの声をお聞かせください!
- 62 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 63 Program A
- 67 Program B
- 71 Program C
- 75 The Subscription Concerts Program 2025–26
- 78 N響関連のお知らせ
- 79 N響の社会貢献
- 80 役員等·団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:パーヴォ・ヤルヴィ 正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太 ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調 飯塚歩夢

- ○字根京子 大鹿由希
- 松田拓之 ○三又治彦 宮川奈々
- ○山岸 努

○横溝耕一

- 第2ヴァイオリン ◎大宮臨太郎
- ○森田昌弘 木全利行 齋藤麻衣子
- ○嶋田慶子 ○白井 篤 ○田中晶子
- ○横島礼理 横山俊朗

米田有花

- * 清水伶香
- * 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
- ○村上淳一郎 ☆中村翔太郎 小野 聡
- 小畠茂隆 * 栗林衣李
- □坂口弦太郎 谷口真弓 飛澤浩人
- ○中村洋乃理松井直之三国レイチェル由依
- # 御法川雄矢
- 〇村松 龍

チェロ

- ◎辻本 玲
- ◎藤森亮一 市 寛也
- 小畠幸法 ○中 実穂
- 〇西山健一 藤村俊介 藤森坂拡志 宮坂拡志 村井優典
- ○山内俊輔 渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
- ○市川雅典 稻川永示
- ○岡本 潤 今野 京
- ○西山真二 本間達朗 矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之 ◎神田寛明
- 梶川真歩 #中村淳二

オーボエ

- ○吉村結実 池田昭子 坪池泉美
- *中村周平和久井仁

クラリネット

- ○伊藤 圭
- ◎松本健司 山根孝司

ファゴット

- ◎字智神広官
- ◎水谷上総
- * 大内秀介 佐藤由起 森田 格

ホルン

◎今井仁志 石山直城 勝俣泰 木川博史 庄司雄大 野見山和子

トランペット

◎菊本和昭 ◎長谷川智之 安藤友樹 藤井虹太郎 山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
- ◎新田幹男 池上 亘 黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎久保昌一 ☆植松 透

打楽器

石川達也 黒田英実 竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

沖 あかね 木村英代

こちらのQRコードから 楽員の詳しいプロフィールが ご覧いただけます。

https://www.nhkso.or.jp/ about/member/index.html



(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)



「N響100年記念 個人サポーター」の 募集について













NHK交響楽団は、1926年10月5日に「新交響楽団」の名称で結成されて以来、今日に至るまで、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ね、国内最高峰のオーケストラとしてたくさんのファンの皆様に愛されてまいりました。

そしてついに、数々の名演に彩られたその歴史は、2026年に「創立100年」という大きな節目を迎えます。 2026年1月からのこの特別な1年に、N響は記念となる公演の数々をはじめ、さまざまな記念事業を行う 予定です。

多彩な取り組みを通じて、長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた私たちからのメッセージをより多くの皆様にお届けしたく、これらの活動を応援してくださる「N響100年記念個人サポーター」を広く募集し、歴史の1ページにお名前を刻ませていただきたいと思います。ぜひ、皆様の温かい応援をお願い申し上げます。

募集期間

2025年4月~10月

寄付額

1010万円(最大5口まで)

- ※ お申し込み方法など詳しくは、N響ホームページまたはお申し込みページ(右記QRコード/外部サービス「コングラント」のページとなります)をご覧ください。
- ※ N響は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、 当団に対する寄付金は国内における税制上の優遇措置の対象となります。
- ※「N響100年記念事業」の概要は、2025年秋ごろの発表を予定しています。





MHK JYMPHONY ORCHESTRA

特別支援

With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

🙏 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

MIZUHO みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

東日本旅客鉃道株式会社

East Japan Railway Company

(O) NTT東日本

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

東京海上ホールティングス株式会社

Tokio Marine Holdings, Inc.

株式会社ポケモン

The Pokémon Company



2024年9月~202 定期公演を対象にファン投票

2024年9月~2025年6月の

ファン投票受付中

2024-25

ファン投票企画「最も心に残った N響コンサート&ソリスト」を、今年も実施いたします

2024-25シーズン(2024年9月~2025年6月)の N響定期公演の中から

最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)を選んで投票してください。 コメントやメッセージも大歓迎。

コメントやメッセージをN響ホームページや『フィルハーモニー』に掲載させていただいた方には、

N響グッズを進呈いたします。

結果発表は11月中旬の予定です。皆さまの投票を心よりお待ちしております。

Aプログラム NHKホール

2024年9月

9/14生、15回

指揮:ファビオ・ルイージ

・ブルックナー/交響曲 第8番 (初稿/1887年)



2024年10月

10/19生、20回

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

- ・オネゲル/交響曲 第3番「典礼風」
- ・ブラームス/交響曲 第4番



2024年11月

11/9 主、10 目

指揮:山田和樹

ピアノ:フランチェスコ・ピエモンテージ

- ・ルーセル/バレエ音楽 「バッカスとアリアーヌ」―組曲 第1番
- ・バルトーク/ピアノ協奏曲 第3番
- ・ラヴェル/優雅で感傷的なワルツ・ドビュッシー/

管弦楽のための「映像」—「イベリア」



2024年12月

11/30±, 12/1

指揮:ファビオ・ルイージ ソプラノ:クリスティアーネ・カルク*

- ・ワーグナー/ 楽劇「トリスタンとイゾルデ」 ―「前奏曲と愛の死 |
- ・R. シュトラウス/「ばらの花輪」*「なつかしいおもかげ」*「森の喜び」*「心安らかに」*「あすの朝」*
- ・シェーンベルク/交響詩「ペレアスとメリザンド」



2025年1月

1/18 主、19 回

指揮:トゥガン・ソヒエフ

・ショスタコーヴィチ/交響曲 第7番「レニングラード」



2025年2月

2/8生、9目

指揮:ペトル・ポペルカ ホルン:ラデク・バボラーク

- ・ツェムリンスキー/シンフォニエッタ
- ・R. シュトラウス/ホルン協奏曲 第1番
- ・ドヴォルザーク/交響詩「のばと」
- ・ヤナーチェク/シンフォニエッタ



2025年4月

4/12主、13目

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ヴィオラ:アントワーヌ・タメスティ*

- ・ベルリオーズ/
- 交響曲「イタリアのハロルド」*
- ・プロコフィエフ/ 交響曲 第4番(改訂版/1947年)



2025年5月

4/26生、27日

指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:オレシア・ペトロヴァ 女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団

・マーラー/交響曲 第3番



2025年6月

6/7生、8_目

指揮:フアンホ・メナ ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*

- ・リムスキー・コルサコフ/ 歌劇「5月の夜」序曲
- ・ラフマニノフ/ パガニーニの主題による狂詩曲*
- ・チャイコフスキー/ 交響曲 第6番「悲愴 |





Bプログラム サントリーホール

2024年9月

9/19末、20金

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:アレッサンドロ・タヴェルナ

- ・シューベルト/イタリア風序曲 第2番
- ・シューマン/ピアノ協奏曲
- ・ベートーヴェン/交響曲 第7番



2024年10月

10/10末、11金

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット クラリネット: 伊藤 圭

- ・シベリウス/交響詩「4つの伝説」 —「トゥオネラの白鳥 |
- ・ニルセン/クラリネット協奏曲
- ・ベルワルド/交響曲 第4番「ナイーヴ」



2024年11月

11/21末、22金

指揮:ディマ・スロボデニューク ヴァイオリン:ニキータ・ボリソグレブスキー

- ・チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲
- ・プロコフィエフ/バレエ音楽「石の花」ー 「銅山の女王」「結婚組曲」
- ・ストラヴィンスキー/3楽章の交響曲



2024年12月

12/5末、6金

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:ネルソン・ゲルナー

- ・スメタナ/歌劇「売られた花嫁」序曲
- ・ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番
- ・ムソルグスキー(ラヴェル編)/ 組曲「展覧会の絵|



2025年1月

1/30末、31金

指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオリン:郷古 廉

- ・ムソルグスキー(リャードフ編) / 歌劇「ソロチンツィの市」
- ―「序曲」「ゴパック」
- ・バルトーク/ヴァイオリン協奏曲 第2番
- ・ドヴォルザーク/交響曲 第8番



2025年2月

2/13末、14金

指揮:ペトル・ポペルカ メゾ・ソプラノ:エマ・ニコロフスカ*

- モーツァルト/アリア 「私は行く、だがどこへ」*
- | 私は行く、たかとこへ」*
 ・モーツァルト/アリア
- 「大いなる魂と高貴な心は」*
- ・モーツァルト/交響曲 第25番 ・モーツァルト/レチタティーヴォとアリア
- 「私のうるわしい恋人よ、さようなら 一とどまって下さい、ああいとしい人よ」*
- ・シューマン/交響曲 第1番「春」



2025年4月

4/17末、18金

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー* ピアノ:松田華音◆

- ・ストラヴィンスキー/バレエ音楽 「ペトルーシカ」(全曲/1947年版)◆
- ・ブリテン/ピアノ協奏曲*
- ・プロコフィエフ/ 交響組曲「3つのオレンジへの恋 |





2025年5月

5/1末、2金

指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*

- ベルク/ヴァイオリン協奏曲
- ・マーラー/交響曲 第4番*





2025年6月

6/12 本、13 金

指揮:フアンホ・メナ フルート:カール・ハインツ・シュッツ

- ・イベール/フルート協奏曲
- ・ブルックナー/交響曲 第6番





Cプログラム NHKホール

2024年9月

9/27金、28生

指揮:尾高忠明 チェロ:辻本 玲*

- チャイコフスキー/ ロココ風の主題による変奏曲 (フィッツェンハーゲン版)*
- チャイコフスキー/ バレエ音楽「白鳥の湖」(抜粋)



2024年10月

10/25金、26生

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

- ・シューベルト/交響曲第7番「未完成」
- ・シューベルト/

交響曲 第8番「ザ・グレート」



2024年11月

11/15 \(\pm\$\), 16 \(\pm\$\)

指揮:アンドレス・オロスコ・エストラーダ トランペット:ラインホルト・フリードリヒ

- ・ワーグナー/歌劇「タンホイザー」序曲
- ・ヴァインベルク/トランペット協奏曲
- ・ショスタコーヴィチ/交響曲 第5番



2024年12月

12/13金、14±

指揮:ファビオ・ルイージ テノール:クリストファー・ヴェントリス* 男声合唱:東京オペラシンガーズ*

- ・リスト/交響詩「タッソー|
- ・リスト/ファウスト交響曲*



2025年1月

1/24金、25生

指揮:トゥガン・ソヒエフ

- ストラヴィンスキー/組曲「プルチネッラ」
- ・ブラームス/交響曲 第1番



2025年2月

2/21金、22生

指揮:下野竜也 ヴァイオリン:三浦文彰

- ・スッペ/喜歌劇「軽騎兵」序曲
- ・サン・サーンス/ ヴァイオリン協奏曲 第3番
- ・スッペ/喜歌劇「詩人と農夫」序曲
- オッフェンバック(ロザンタール編)/ バレエ音楽「パリの喜び | (抜粋)



2025年4月

ヨーロッパ公演のため公演休止

2025年5月

5/30金、31±

指揮:ギエドレ・シュレキーテ ピアノ:藤田真央*

- ・シューベルト/「ロザムンデ | 序曲
- ・ドホナーニ/
- 童謡(きらきら星)の主題による変奏曲*
- ・R. シュトラウス/ 歌劇「影のない女 | による交響的幻想曲
- ・R. シュトラウス/歌劇「ばらの騎士 | 組曲





2025年6月

6/20 \(\preceq\) 21 \(\precep\)

指揮:タルモ・ペルトコスキ ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ

- ・コルンゴルト/ヴァイオリン協奏曲
- ・マーラー/交響曲 第1番「巨人」





投票について

対象公演

2024-25シーズン N響定期公演(2024年9月~2025年6月)(A·B·Cプログラム計26演目/A·Bプログラム各9演目、Cプログラム8演目)。各公演の詳細は6~8ページをご参照ください。

投票資格

2024-25シーズン N響定期公演 (2024年9月~2025年6月)をひとつでも聴いたことがある方。会場でお聴きになった方のみならず、テレビやラジオでご視聴になられた方もご投票いただけます。

投票方法

以下のQRコードを読み取るかURLを入力し、N響ホームページの投票ページにアクセスして、最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)を選んでご投票ください。投票理由についてのコメントやN響へのメッセージもご記入いただけます。

ご投票はこちらから

https://questant.jp/q/ FI55UE66



郵便でもご投票いただけます。

必要事項(住所、名前、電話番号、メールアドレス[任意]、最も

心に残ったコンサート[3つまで]、最も心に残ったソリスト[1名(団体)のみ]、メッセージ[任意])をご記入の上、下記までお送りください。

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係

コメントやメッセージをホームページ、フィルハーモニーに掲載させていただいた方にはN響グッズを進呈します。

締切

2025年9月26日(金)※郵便投票分は当日消印有効

〈投票上の注意〉

- ※ 投票はおひとり様1回でお願いします。同一の方からとみられる 複数投票については無効票とさせていただきます。
- ※ 投票に際していただいたコメントなどは、N響ホームページや 『フィルハーモニー』など、当団の媒体でご紹介させていただく 場合がございます。

結果発表

[中間発表] 2025年9月上旬をめどにN響ホームページなどで「最も心に残ったコンサート」のみ途中経過の順位を発表する予定です。

[完全版] 2025年11月中旬にN響ホームページおよび 『フィルハーモニー』 2025年11月号などで、投票してい ただいたみなさまのコメントとあわせて発表いたします。

個人情報の使用目的について

- ※ 今回の投票で収集する個人情報のうち、氏名 (ベンネーム可)は当団の媒体 (ホームベージ、フィルハーモニー)でコメントと共に紹介する場合がございます。また、氏名 (ベンネーム可) およびメールアドレスは、コメントをホームベージおよびフィルハーモニーに掲載させていただく場合に、取材や確認のためにご連絡させていただくために、そして N響ケッズの送付先をお伺いさせていただくために使用させていただきます。またその他の個人情報 (投票内容、年齢、性別など)については、個人が特定されない形で統計的に処理した上で投票結果として発表させていただく場合があります。
- ※ 取材や確認のために編集部(一般財団法人 NHK 財団/株式会社アルテスパブリッシング)よりメールなどでご連絡させていただく場合があります。
- ※ 投票結果発表後、今回収集した個人情報は合理的な範囲で速やかに破棄します。 今回のアンケートで記載いただいた個人情報を編集部 (一般財団 法人 NHK財団 / 株式会社アルテスパブリッシング)以外の第三者に提供する事はございません。

この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

公益財団法人 NHK交響楽団 最も心に残った N響コンサート&ソリスト係

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: 03-5793-8120

PROGRAM



第2039回

NHKホール

 $6/7 \pm 6:00 \text{pm}$

6/8日2:00pm

指揮

ウラディーミル・フェドセーエフ

ピアノ

ユリアンナ・アヴデーエワ*

コンサートマスター 郷古廉

リムスキー・コルサコフ 歌劇 [5月の夜 | 序曲 [8']

ラフマニノフ パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*[24]

-休憩(20分)----

チャイコフスキー

交響曲 第6番 口短調 作品74 [悲愴 | [50]

- Ⅰ アダージョ アレグロ・ノン・トロッポ
- Ⅱ アレグロ・コン・グラーチア
- Ⅲ アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ
- Ⅳ 終曲:アダージョ・ラメントーソ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアン ケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただ きたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは61ページをご覧ください

こちらの QR コードから アンケートページへアクセスできます



https://www.nhkso.or.jp/ enquete.html

7 & 8. JUNE. 2026

ウラディーミル・フェドセーエフ(指揮)



1932年にレニングラード (現サンクトペテルブルク) に生まれ、モスクワの グネーシン音楽アカデミーとチャイコフスキー音楽院で学んだ。

1974年にモスクワ放送交響楽団 (現チャイコフスキー交響楽団) の芸術 監督および首席指揮者に就任し、翌年にはこのオーケストラとともに初めて日本を訪れた。その後も約半世紀にわたり、ロシア有数のこのオーケストラを統率 (2025年2月に首席指揮者は退任し、引き続き芸術監督は務め

る)。1997~2004年にはウィーン交響楽団の首席指揮者も務めた。

日本各地のオーケストラとの縁も深く、1996年には東京フィルハーモニー交響楽団の首席客 演指揮者に就任、2015年に同オーケストラから名誉指揮者の称号を贈られている。

80歳の2013年5月に、NHK交響楽団を初めて指揮した。その後は2015年4月および11月、2017年2月および5月、2018年7月および12月、2023年3月と、定期公演だけでなくオーチャード 定期やいわき定期、西日本へのツアーなど、さまざまな場所で共演を重ねている。

今回の定期公演は、初来日から50年目という、記念すべき年に開催される。リムスキー・コルサコフ、ラフマニノフ、そしてチャイコフスキー。力強く、しかしメロディには憂愁の影も濃い、ロシア音楽独自の魅力を味わわせてくれることだろう。

[山崎浩太郎/音楽評論家]

ユリアンナ・アヴデーエワ(ピアノ)



ユリアンナ・アヴデーエワは1985年モスクワ生まれ、早期の音楽教育で有名なモスクワ市立グネーシン音楽学校で学び、2003年からはチューリヒ芸術大学でコンスタンティン・シチェルバコフに師事した。

2006年にジュネーヴ国際音楽コンクールピアノ部門で1位なしの2位となって注目を浴び、さらに2010年ワルシャワのショパン国際ピアノコンクールで優勝して一躍その名声を高めた。以後は世界各地でのリサイ

タル、多くのオーケストラとの協奏曲の共演、ザルツブルクやルツェルンをはじめとするさまざまな音楽祭への出演など、世界のピアノ界の最前線を行くピアニストのひとりとしてめざましい活躍ぶりを示しており、フォルテピアノ奏者としても活動している。作品全体をしっかり見据えながら細部の表情を綿密に彫琢して濃やかな情感を織り込んでいく演奏は高く評価されている。

N響とは2014年以来の久々の共演。曲はラフマニノフの《パガニーニの主題による狂詩曲》で、彼女らしい確かな造形のうちに、この作品の持つロマン的な情感と演奏技巧の鮮やかさの両面を表し出してくれるに違いない。

[寺西基之/音楽評論家]

Program Notes | 沼野雄司

日本から一番ちかい外国がどこかご存じだろうか。韓国、と答える人が多いような気が するのだが、答えはロシアである。稚内とサハリンの間はわずか43キロしか離れていない。 それなのに、この国のなんと「遠い」ことだろう。われわれはいまだに、ロシアについて驚 くほど何も知らない。まずはチャイコフスキー、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフの音楽 を聴くことから始めようではないか。これらはまぎれもなく、隣人の音楽なのだから。

リムスキー・コルサコフ

歌劇 「5月の夜 | 序曲

19世紀のロシア人作曲家たちが一様に目指したのは、なによりもロシア語によるグラ ンド・オペラの確立だった。もちろん室内楽も、管弦楽曲も、バレエ曲も大事だが、クラ シック音楽の後進国ロシアがヨーロッパと肩を並べるためには、オペラという高い壁をど うしても乗り越える必要があったのである。

いわゆる「ロシア五人組 | の中で、もっとも年少にあたるニコライ・リムスキー・コルサコ フ(1844~1908)の場合も例外ではない。彼は15作におよぶオペラを書くと同時に、ム ソルグスキーの《ボリス・ゴドノフ》や《ホヴァンシチナ》、さらにはボロディンの《イーゴリ公》 を補筆するなど、ロシア・オペラ確立のために生涯をささげた。

《5月の夜》は1879年に作曲され、翌年に初演された彼の2つ目のオペラ。ゴーゴリ原 作による物語は、ロシアの寒村における恋愛模様を水の精ルサルカの活躍を交えながら 綴ったもので、最後はハッピーエンドに終わる。ぞっとするほどの残酷さと、その対極とも いえる笑いが平然と並べられているあたりに、この国ならではの持ち味があろう。

〈序曲〉は演奏時間にして8分ほど。3番ホルンで始まる序奏は、すぐにさまざまな下方 変位音を含んだ魅力的な和声を披露して、おとぎ話の世界へと聴き手を引きずり込む。 この部分だけで、作曲者がドイツ・ロマン派の語法を掌中に収めていることがよくわかろ う。その後もホルンが先導するなか、クレッシェンドと共にアレグロの主部へ。16分音符 のパッセージが細かい泡のようにぷくぷくと増殖し、バレエ音楽のような華やかさを湛え るあたりは見事な手腕だ。中間部でロシア風のたっぷりとした旋律が何度も繰り返され た後、終盤ではダメ押しのようにホルンのアンサンブルが見せ場を作る。

作曲年代	1879年
初演	 1880年1月9日、サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場にて、エドゥアルド・ナープラヴニーク指
	揮による
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ
	弦楽

パガニーニの主題による狂詩曲 作品43

曲の良し悪しをはかるのは難しい。現代の作曲コンクールにおいて、審査員Aは満点、Bは零点、みたいな事態が平気で起こるのはご存じのとおり。もっとも、同じ旋律をいかに巧みに処理するか、という勝負であれば少しは比較も可能だろう。パガニーニ《24の奇想曲》の終曲は、その格好の「腕くらべ」の場になってきた。ブラームス、リスト、ブラッハー、ルトスワフスキ、一柳慧、リシャール・アムラン、ファジル・サイetc...。

なかでももっとも高い人気を誇るのが、セルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)の《パガニーニの主題による狂詩曲》である。彼は持ち前の技巧で主題をダイナミックに変奏するだけではなく、第18変奏では主題の音程を反行させて、原旋律とはまったく異なる、しかしとろけるように美しい旋律を作りだしてみせた。楽曲の後半で満を持してあらわれるこの変奏こそが、彼の「勝因」ということになろう。

作曲は1934年。ラフマニノフがロシア革命の直後に故郷を離れてから、すでに16年 が経過している。

序奏と24の変奏からなる全体には、いくつかの特徴がある。まずはラフマニノフのピアニズムのあらゆる技術が網羅的に示されていること。基本的には後半に進むにつれて技巧も派手なものになっていくが、むしろオーケストラがおとなしい前半の諸変奏にこそ、彼ならではの機知と技術が織り込まれているようにも思う。

そして、ラフマニノフのオーケストレーションの特質が端的に示されていること。ファゴットをはじめとする木管楽器への偏愛、そしてそれらを軸にして全楽器がうねる様子は他の作曲家とはかなり異なった味わいがある。

途中(第7変奏)から、〈怒りの日(ディエス・イレ)〉の旋律が重ねられることも重要だ。この 旋律はパガニーニの主題と似た音程関係を持っているが、曲の最後に至るまで何度も あらわれて豊かな色彩感を音楽に与える。

最後に、先にも触れた第18変奏の鮮やかさ。楽曲全体の後半にあらわれるこの旋律によって、われわれは深々と呼吸しながら、作曲者と共に遠いロシアを思うのである。

作曲年代	1934年
初演	 1934年11月7日、ボルティモアにてラフマニノフ自身の独奏、レオポルド・ストコフスキー指揮、フィラ
	デルフィア管弦楽団による
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トラ
	ンペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、グ

交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」

作曲家の最晩年の作品は「死の予感」といった言葉とともに説明されたりする。しかし多くの場合、死は唐突な結果であり、ご本人自身は、まさか自分がもうすぐこの世を去るとは思っていなかったケースがほとんどだろう。

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~1893)の《交響曲第6番》も、そのひとつと思われる。スケッチは1893年2月に開始され、3月末には全曲が完成、その後のオーケストレーションも順調に推移している。初演は10月16日、作曲者自身の指揮で行われた(同時に《ピアノ協奏曲第1番》、そしてモーツァルト、リスト作品が取りあげられた)。3日後の19日、彼はのんびりとオペラに出かけ、20日には演劇を鑑賞している。しかし翌21日、突如として不調をきたし、25日にこの世を去ってしまった。

初演直後の急死であることは事実だが、《悲愴》というタイトルが初演のはるか前に付されていること、「悲愴」と訳されるロシア語の本来の語意は、むしろ「情熱的」といったほどの意を持つことなどは、もはや一般にもよく知られている。とすれば――終楽章の中盤を過ぎて鳴らされる銅鑼の一撃が実に意味ありげであることは確かながらも――もはや作品を「神話」から解放すべき時期に来ているだろう。

第1楽章(アダージョーアレグロ・ノン・トロッポ)は、コントラバスとファゴットの低音で幕を開ける(この音型がベートーヴェンの《ピアノ・ソナタ「悲愴」》と似ているのは興味深い)。弦楽器で提示される第1主題と、このうえなく甘美な第2主題は極端な対照を成しているが、後者を思いきって独立させているためにさして違和感はない。第2楽章(アレグロ・コン・グラーチア)は、音楽史上もっとも有名な5拍子の楽曲。とはいえ、変拍子的なギクシャク感は皆無だから、5拍子であることに気づかない聴き手もいるはず。第3楽章(アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ)は、バレエ音楽の響きが感じられる、スケルツォ的な行進曲。豪快な曲想だが、構成は緻密きわまりない。また、シンバル一関、とはまさにこういうことをいうのだろう。第4楽章(終曲:アダージョ・ラメントーソ)は弦楽器のあえぐような旋律ではじまるが、おもしろいのはこの1本の旋律が第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリンで交互に担われること。珍しい書法だが、ゆれるような独特の響きは、きわめて効果的だ(ちなみに、のちの再現部では、この旋律は第1ヴァイオリンのみで演奏される)。

作曲年代	1893年
初演	
楽器編成	
	トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、銅鑼、弦楽

Introduction to Classical Music

濃密でダイナミックなピアニズム

セルゲイ・ラフマニノフ

Sergei Rakhmaninov (1873-1943)



超絶技巧対決!

ニコロ・パガニーニ(1782~1840)といえば、「悪魔に魂を売った」と噂が立つほど、蒙まじいテクニックをもった稀代のヴァイオリニスト。芸術における技巧の重要性を、大きく知らしめた音楽家だ。時代も楽器も異なるが、技巧派として演奏活動をしていたラフマニノフも、きっとパガニーニについて思うところは多かったに違いない。

PROGRAM

第2040回

サントリーホール

6/12 本 7:00pm

6/13 全 7:00pm

指揮

フアンホ・メナ

フルート

カール・ハインツ・シュッツ

コンサートマスター 郷古廉

イベール

フルート協奏曲[19]

- T アレグロ
- Ⅱ アンダンテ
- Ⅲ アレグロ・スケルツァンド

----休憩(20分)------

ブルックナー

交響曲 第6番 イ長調[60]

- I マエストーソ
- Ⅱ アダージョ:非常に厳かに
- Ⅲ スケルツォ:速くなく―トリオ:ゆっくりと
- Ⅳ 終曲:動きをもって、しかし速すぎず

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアン ケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただ きたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは61ページをご覧ください

こちらの QR コードから

アンケートページへアクセスできます



https://www.nhkso.or.jp/ enquete.html

フアンホ・メナ(指揮)



フアンホ・メナはスペイン・バスク地方の出身で、現在もこの地に居を構える。バスクはエスニシティや文化が特殊な地域として、またラヴェルの故郷(ただし同じバスクでもラヴェルはフランス側)としても有名だ。そんなバックグラウンドもありメナはラヴェルをはじめ、スペイン、フランスやラテン・アメリカの作曲家をレパートリーの核としてきた。しかしキャリアの深まりと共に幅は大きく広がり、2016年にはスペイン国家音楽賞も受賞、

同国を代表する巨匠のひとりとして歩み始めている。スペイン・ビルバオ交響楽団の芸術監督を務めた後(1999~2008年)、2011年からはBBC フィルハーモニックの首席指揮者の任に当たった(~2018年)。このポストによって知名度を国際的に広げ、またお国もののみならず、シューベルトやブルックナーといったシンフォニックなレパートリーでも評価を固めた。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする世界中の名門オーケストラにもくり返し客演している。

N響には2017年に初登場、2021年にも再度登壇しているが、いずれもラテン、フランス系のプログラムだった。今回はイベールにブルックナーを組み合わせ、チェリビダッケにも師事したメナが骨太のシンフォニーで真価を問う。《交響曲第6番》はすでにBBCフィルと録音もしている得意曲。録音では端正ですっきり伸びやかにまとめているが、独墺圏の交響曲演奏に伝統を持つN響との共演はいかに。

[江藤光紀/音楽評論家]

カール・ハインツ・シュッツ (フルート)



オーストリア、インスブルック生まれ。オーストリアのフォアアールベルク州立音楽院でエヴァ・アムスラーに師事した後、スイスのバーゼルで彼女の師であるオーレル・ニコレにつく。その後、フランスで学びたいと思い、リヨン国立高等音楽院でフィリップ・ベルノルドに師事して、自らの音楽の領域を広げた。1998年のカール・ニルセン国際音楽コンクールと1999年のクラクフ国際フルート・コンクールで優勝。シュトゥットガルト・

フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団を経て、2011年、ウィーン国立歌劇場管弦楽団 に入団し、2015年からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者を務めている。ウィーン・フィルの定期演奏会では、ブーレーズの《メモリアル》やモーツァルトの《フルート協奏曲第1番》で独奏を担った。アンサンブル・ウィーン・ベルリン、ウィーン・リング・アンサンブルのメンバー。

NHK交響楽団とは2015年と2017年に共演。今回は、イベールの《フルート協奏曲》を演奏する。ドイツ・オーストリア音楽だけでなくフランス音楽も得意とするシュッツだけに、魅力的な演奏が期待される。

[山田治生/音楽評論家]

しかし、ブルックナーの《交響曲第6番》が、彼のほかの交響曲と比べて演奏の機会に 恵まれないのはなぜなのだろう? どの楽章も性格がはっきりしていて耳に残りやすいし、 ブルックナーにしてはコンパクトだから、プログラムを独占してしまうこともない(おかげで今 回はイベールの協奏曲も楽しめる)。それに、多くの音楽ファンを困惑させる、ナントカ稿やら ナンチャラ版やらといった話とも無縁である。つまりそれは、ブルックナーがもともと思い 描いていた交響的世界を、そのまま追体験できるということだ。

ヴァイオリンが刻むリズムに乗って、さあ、《第6番》の世界へといざ進まん!

イベール

フルート協奏曲

ジャック・イベール(1890~1962)は、生涯におよそ120の作品を残した、20世紀前半を代表するフランスの作曲家である。いわゆる「六人組」には属していないが、その一員であるオネゲルやミヨーとはパリ音楽院でともに学び、卒業後も交流があった。第1次世界大戦の終結後、本格的に活動をスタートさせると、1927年に初演された一幕物のオペラ・ブッファ《アンジェリーク》で大成功を収め、その地位を不動のものとした。

《フルート協奏曲》は、20世紀を代表するフルート奏者マルセル・モイーズ(1889~1984) のために作曲された。ちなみに、初演の際に指揮を務めたフィリップ・ゴーベールもまた一流のフルート奏者であった。小編成のオーケストラで、3楽章合わせても20分程度と、規模こそ小さめだが、ソリストに高度な技術と表現力を要求する難曲でもある。

第1楽章 鋭い不協和音で勢いよく始まると、フルートがすぐさま軽やかで少しおどけたような主題を奏でる。その後いったん落ち着くも、再びフルートが動きだすと、音楽はいっそう活気を帯びてゆく。

第2楽章 フルートが奏でる息の長い旋律を、弦楽器が柔らかい響きで包み込む。音楽がひと盛りあがりしたあとの、フルートとソロ・ヴァイオリンの甘美な絡み合いは必聴。

第3楽章 リズミカルでエネルギッシュなフィナーレ。タイミングを微妙にずらすような和音の三連打が、推進力あふれる音楽に心地よいアクセントを添える。中盤に差しかかってフルートの独奏が始まると、太陽が輝く日中から月夜に場面転換したかのように曲調が一変する。終盤には、フルートの技巧が凝縮された長大なカデンツァも待っている。

作曲年代	1932~1933年
初演	 1934年2月25日、パリ、フィリップ・ゴーベール指揮、マルセル・モイーズ独奏
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット1、ティンパニ、弦楽、フルート・ソロ

交響曲 第6番 イ長調

アントン・ブルックナー(1824~1896)が、長年務めていたリンツ大聖堂のオルガニスト職を辞してウィーンに移住したのが1868年のこと。以後、お蔵入りになったものも含めて、ほとんど毎年のように新しい交響曲を作曲し続けた。しかし、1876年に《交響曲第5番》を書きあげると、創作の手をいったん止めて、それまでに作曲した交響曲作品の大規模な改訂に集中することになる。およそ3年におよぶ「沈黙」ののち、ブルックナーは《弦楽五重奏曲》の作曲を経て、再び交響曲の創作に向かいはじめる。こうして書きあげられたのが《交響曲第6番》である。第1楽章に着手したのは1879年夏。その後、《交響曲第4番》の改訂などもあって中断したが、スイスへの休暇旅行の帰りに立ち寄った地元ザンクトフローリアンで作曲を再開、1881年9月に全楽章の完成に至った。

本作は、それまでの記念碑的な長大さを誇る作品群とは一線を画した、比較的コンパクトで凝縮された構成を持つ。その意味で、ブルックナーが新たな一面を見せた作品といえるだろう。しかし、当時はほとんど脚光を浴びることがなく、1883年に行われた初演でも、取りあげられたのは第2楽章と第3楽章のみ。生前には、全曲の演奏も楽譜の出版も叶わなかった。こうした事情もあって、作曲当初の姿のままこんにちまで伝えられている、ブルックナーとしては珍しい交響曲作品である。

第1楽章 マエストーソ。予感と緊張をはらんだ冒頭の静けさは、オーケストラの爆発によって打ち破られる。力強く刻まれるリズムに支えられた勇壮な曲調は、さながら大軍の行進のようだ。

第2楽章 アダージョ: 非常に厳かに。葬送音楽風のアダージョ。 悲痛な主題に重ねられるオーボエの嘆きの歌が印象的だ(この旋律は、性格を変えて第4楽章にも登場する)。 死や魂の浄化のイメージを呼び起こす厳かな音楽は、最終的には安らかな響きへと行き着く。

第3楽章 スケルツォ:速くなく―トリオ:ゆっくりと。第1楽章と共鳴するような、力強いスケルツォ。穏やかなトリオ(中間部)にも、勇ましいホルンのモティーフが鳴り響く。

第4楽章 終曲:動きをもって、しかし速すぎず。あてもなくさまようような旋律から始まるも、金管楽器のリズムに誘われて勝利の響きが解き放たれる。いっぽう、対位法的に紡がれてゆく副次主題は、気がつけばワーグナー風の旋律に姿を変える。終盤には第1楽章冒頭の楽想が戻ってきて、輝かしいクライマックスを作りだす。

作曲年代	1879~1881年
初演	
	ガルト(全曲初演)カール・ポーリヒ指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、
	ティンパニ、弦楽

Introduction to Classical Music

Jacques Ibert (1890–1962

オペラにバレエ、オーケストラ作品に室内楽、歌曲や映画音楽と、オール・ ラウンドに才能を発揮したイベール。20代に勃発した第1次世界大戦で は士官として従軍したが、戦後に作曲家の登竜門とされる「ローマ賞」を 受賞。1862年生まれのドビュッシー、1875年生まれのラヴェルに続く世 代のフランスの作曲家として道を拓いた。明るさとアイロニーを併せ持つ彼 の作品は、フランスらしい優雅で洗練された書法で纏められている。

В 2025 JUNE [第2040回] イベールがパリ音楽院時代に最も影響を受けたのは、

ラヴェルとの交流

対位法クラスの教授ジェダルジュだ。オーケストレーショ ンの教えだけでなく、その人柄にも全幅の信頼を置いて 慕っていた。優れた教育者であったジェダルジュが指導 した作曲家のなかにはラヴェルもいて、イベールは、兄 弟子にあたるラヴェルとも親しく交流していたという。

オシャレで温和なイベールの訪問に、 思わず笑顔がこぼれるラヴェル先輩 イラストレーション: ©IKE

PROGRAM



第2041回

NHKホール

6/20 全 7:00pm

6/21 ± 2:00pm

指揮

タルモ・ペルトコスキ

ヴァイオリン

ダニエル・ロザコヴィッチ

コンサートマスター

郷古 廉

コルンゴルト ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35

[23']

- I モデラート・ノービレ
- Ⅱ ロマンス:アンダンテ
- Ⅲ 終曲:アレグロ・アッサイ・ヴィヴァーチェ

──休憩(20分)──

マーラー

交響曲 第1番 二長調 [巨人] [55]

- I ゆっくりと、引きずるように、自然音のように
- Ⅱ 力強い動きをもって、しかし速すぎずに
- Ⅲ 厳粛に悠然と、引きずらずに
- IV 嵐のように速く

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは61ページをご覧ください

こちらのQRコードから アンケートページへアクセスできます



https://www.nhkso.or.jp/ enquete.html

タルモ・ペルトコスキ(指揮)



「2000年生まれの指揮者」という存在を想像できるだろうか。しかも各地の楽団でいくつもポストを持つ若い指揮者だ。フィンランド出身のタルモ・ペルトコスキは、14歳でヨルマ・パヌラに学び、シベリウス音楽院でサカリ・オラモに師事。ハンヌ・リントゥ、ユッカ・ペッカ・サラステ、エサ・ペッカ・サロネンらの指導も受ける。2022年1月、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者に抜擢されて脚光を浴びると、同

年5月にラトヴィア国立交響楽団の音楽監督兼芸術監督、9月にロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、12月にトゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団の音楽監督への就任が発表された。これほどの短期間で国際的なキャリアを築いた指揮者は前代未聞だろう。さらに2026-27シーズンからは香港フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任する。エウラヨキ・ベルカント音楽祭でワーグナーの楽劇《ニーベルングの指環》全作を指揮するなど、オペラの経験も積む。

名門レーベルからはドイツ・カンマーフィルを指揮したモーツァルトの交響曲集をリリース済み。大胆かつ斬新な解釈に加え、配信では曲間に自らのピアノによる即興演奏をはさんで話題を呼んだ。

ペルトコスキはマーラーにも積極的に取り組んでいる。N響からどんなサウンドを引き出してくれるのか、大いに注目したい。

「飯尾洋一/音楽ジャーナリスト]

ダニエル・ロザコヴィッチ(ヴァイオリン)



2001年ストックホルム生まれのダニエル・ロザコヴィッチは6歳からヴァイオリンを習い始め、早くも、その2年後にはウラディーミル・スピヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団との共演で協奏曲デビューを果たした。彼の演奏会はフランスのフィガロ紙で「完璧な技巧。たぐいまれな才能」と絶賛されるなど、常に高い評価を獲得している。巨匠イヴリー・ギトリスもその才能に感銘を受けて、テルアヴィヴの音楽祭に招き、

バッハの《2つのヴァイオリンのための協奏曲》を共演したほどである。

ロザコヴィッチはウィーン国立音楽大学でドラ・シュヴァルツベルク教授に、カールスルーエ音楽大学ではヨーゼフ・リシン教授に学んだ。すでに世界各地の主要なオーケストラと共演を重ねており、2016年にドイツの老舗レーベルと専属契約を結び、同社の最年少専属契約アーティストとなった。NHK交響楽団とは初共演となるが、アメリカで活躍した天才作曲家コルンゴルトの傑作《ヴァイオリン協奏曲》で、その美音と素晴らしいテクニックを披露してくれるに違いない。

[片桐卓也/音楽評論家]

Program Notes 中村伸子

1906年、9歳になるかならないかのエーリヒ・ウォルフガング・コルンゴルト(1897~1957) は父に連れられ、当時ウィーン宮廷歌劇場の音楽監督を務めていたグスタフ・マーラー(1860~1911)を訪ねた。作曲したばかりのカンタータをピアノで弾いて聴かせると、マーラーは「天才だ!」と叫んだという。マーラーの提案で、コルンゴルトはツェムリンスキーに師事することとなり、ウィーンから世界を席巻する作曲家へと育っていった。

コルンゴルト

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

そのコルンゴルトが、第2次世界大戦中の亡命先ハリウッドで書いた映画音楽をもとに完成させたのが《ヴァイオリン協奏曲》である。コルンゴルトがアメリカでも交友を持ったマーラーの妻、アルマ・マーラー・ヴェルフェルに捧げられている。

オーストリア・ハンガリー帝国ブリュン(現チェコのブルノ)のユダヤ系家庭に生まれたコルンゴルトは、4歳のときに家族でウィーンに移り住む。ウィーンの音楽シーンに大きな影響力を持った音楽批評家の父ユリウスは、息子を世に出すことに慎重で、12歳のコルンゴルトのピアノ作品を有識者に送り、公開しないことを条件に意見を仰ぐ。ところが、ブダペストの批評家アウグスト・ベーアは「成熟し想像力豊かな構成、遊び心にあふれた形式、並はずれたリズムの多様性、そして最新の和声への深い理解」に驚愕し、地元紙に大きな記事を載せてしまう。これをきっかけにコルンゴルトの名前はヨーロッパ中に広まることとなった。

コルンゴルトはオペラ作曲家へと成長し、23歳で完成された《歌劇「死の都」》(作品12、1920年初演)はヨーロッパのみならずアメリカでも上演される大ヒットとなった。シェイクスピアの『夏の夜の夢』の映画化の企画で、メンデルスゾーンの音楽を編曲・指揮する仕事のために1934年にはじめてハリウッドを訪れたコルンゴルトだが、3度目のハリウッド滞在中の1938年3月にナチス・ドイツがオーストリアを併合すると、ウィーンに戻ることができなくなり、亡命を決意し家族を呼び寄せる。1943年にはアメリカ市民権を獲得し、ワーナー・ブラザース社を中心に約20作の映画音楽を手がけた。

「ヒトラーの暗雲が世界にたちこめているうちは」(コルンゴルト)演奏会のための音楽を書かないと心に決めていたコルンゴルトだったが、終戦が近づくとコンサートホールへの復帰の準備に取り掛かる。そのひとつが《ヴァイオリン協奏曲》である。交友のあったヴァイオリニスト、ブロニスラフ・フーベルマンの提案で作曲が始められ、自身が音楽を担当した4つの映画のテーマが再利用された――『砂漠の朝』(1937年公開、第1楽章に利用)、『革命児フアレス』(1939年公開、第1楽章)、『風雲児アドヴァース』(1936年公開、第2楽章)、

『放浪の王子』(1937年公開、第3楽章)。公開の終わった映画の音楽が再び聴かれることがほとんどなかった当時、コルンゴルトは、バレエ音楽や劇音楽のように映画音楽が単独でコンサートのレパートリーとなることを望んでいたのである。

3楽章からなる本作品は、世紀転換期ウィーンの耽美的な音楽語法とハリウッド映画音楽の華麗さが溶け合う、高度な技巧を湛えた作品である。

作曲年代	 1945年
初演	1947年2月15日セントルイスにて、ヤッシャ・ハイフェッツ独奏、ヴラディーミル・ゴルシュマン指揮、セ
	ントルイス交響楽団
楽器編成	 フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2(コ
	ントラファゴット1)、ホルン4、トランペット2、トロンボーン1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、グロッケン
	シュピール、シロフォン、ヴィブラフォン、銅鑼、鐘、チェレスタ1、ハープ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

マーラー

交響曲第1番二長調「巨人」

「その才能がまだ開花していない、才能ある音楽家による有望な若手作品」とは、マーラーの《交響曲第1番》が《交響詩》という作品名で披露された1889年11月のブダペストでの初演の評である。その筆者は、21年後にコルンゴルトの才能を世に知らせることとなるブダペストの批評家アウグスト・ベーアであった。

オーストリア・ハンガリー帝国の小さな村カリシュト(現チェコのカリシチェ)に生まれたマーラーは、ウィーンで学ぶ。保養地や小都市の指揮者を経てカッセル宮廷歌劇場の常任指揮者を務めていた1884年に、のちに《交響曲第1番》となる音楽の作曲が始められた(近年の研究では、《交響曲第1番》のルーツを1880年まで遡れる可能性も指摘されている)。6月には劇音楽の一部として〈花の章〉が書かれ、同年末からは、《交響曲第1番》の第1楽章と第3楽章で引用される《さすらう若者の歌》が作曲された。この時点から、1888年春に「6週間ほとんどずっと机に向かって」(マーラー)完成させるまでの詳しい創作過程は明らかになっていない。1889年11月、当時ハンガリー王立歌劇場の監督であったマーラー自身の指揮で、のちに削除される〈花の章〉を含む5つの楽章からなる《交響詩》として初演された。

マーラーはその後、彼が最後にこの作品を自ら指揮した1909年12月のニューヨーク公演の前後に至るまで、再演のたびに大小の変更を施した。とりわけ、「高い技術ゆえに派手な色づかいや誇張した表現に陥りやすい」というベーアの手厳しい指摘に応えるかのように、「見通しよく美しく、完全に」(マーラー)聴こえるようオーケストレーションに改良を重ねた。

また、1893年10月のハンブルク公演の際には、マーラーの愛読書であったとされる

ジャン・パウルの同名の小説に由来する「巨人」という新たな標題とともに、第1楽章「春そして終わりなし」、第3楽章(現第2楽章)「帆をいっぱいに張って」、第4楽章(現第3楽章)「座礁!」、第5楽章(現第4楽章)「地獄から」といった各楽章の副題と説明書きが加えられた。

ところが、1896年3月のベルリン公演のための改訂では、標題の「巨人」と副題、説明書きが取り除かれ、新ドイツ楽派の系譜を印象づけていた《交響詩》から《交響曲ニ長調》へと楽曲名が変更された。同時に第2楽章〈花の章〉が削除され、4楽章形式となる。マーラーは、この作品と文学などの他の芸術領域との関わりはまるでなかったことのように扱い、純粋芸術としての伝統的な交響曲のあり方に傾倒していったようである。後年にマーラー自身が「いわゆる『巨人』」と言い表すことはあったものの、1898/99年にマーラーの監督のもとで《交響曲第1番》として初めて印刷・出版された際に標題は付けられていない。

第1楽章 ゆっくりと、引きずるように、自然音のように。ニ長調。4分の4拍子。牧歌的な主題が展開される、生命の躍動感に満ちたソナタ形式の楽章。

第2楽章 力強い動きをもって、しかし速すぎずに。イ長調。4分の3拍子。レントラー 舞曲を中心とし、素朴さとユーモアが交錯する3部形式のスケルツォ。

第3楽章 厳粛に悠然と、引きずらずに。ニ短調。4分の4拍子。童謡《フレール・ジャック》(オーストリアでは《ブルーダー・ヤーコプ》または《ブルーダー・マーティン》として知られる)を短調で引用した、皮肉に満ちた葬送行進曲。

第4楽章 嵐のように速く。へ短調。2分の2拍子。シンバルの爆発するような一撃にはじまり、苦悩から勝利へと向かう英雄的な終楽章。

作曲年代	[交響詩版] 1888年 [交響曲版] 1896年
初演	 [交響詩版] 1889年11月20日、ブダベストにて、作曲者自身による指揮、ブダベスト・フィルハーモ
	ニー管弦楽団 [交響曲版] 1896年3月16日、ベルリンにて、作曲者自身による指揮、ベルリン・フィ
	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
楽器編成	フルート4(ピッコロ3)、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット4(Esクラリネット2、バス・クラリネット1)。
	ファゴット3 (コントラファゴット1)、ホルン7、トランペット5、トロンボーン4、テューバ1、ティンパニ2、大
	 太鼓、シンバル、シンバル付大太鼓、トライアングル、銅鑼、ハープ1、弦楽

C 2025 JUNE 「第2041回〕 Introduction to Classical Music

ハリウッドへ渡ったウィーンの天才音楽家

エーリヒ・ウォルフガング・コルンゴルト

Erich Wolfgang Korngold (1897-1957)

幼少期より音楽の才能をあらわし、マーラーに「天才」と言わしめたコルンゴルト。23歳にしてオペラ作曲家としての名声を手にしたが、第2次世界大戦中にナチス・ドイツから逃れてアメリカへ亡命すると、作曲の軸足はクラシック音楽から映画音楽へと移っていく。

コルンゴルトはハリウッドでもその美しい旋律で

映画音楽への影響

旋律の美しさ、管弦楽法の巧みさはもとより、映像に合った音楽ということにも気を配りながら作曲したコルンゴルト。その技術・芸術性は抜きん出ており、その後のハリウッド映画音楽の礎を築いた。『スター・ウォーズ』などの映画音楽を作ったジョン・ウィリアムズをはじめ、コルンゴルトの

音楽は後世にも絶大な影響 *、を与えた*。



財 法 て敗

- ゼンシュトックの逡巡

日本にこのままずっといて大丈夫だろうか。 どこかに逃げ出す手はないか。新交響楽団 (現NHK交響楽団)の専任指揮者、ヨーゼフ・ ローゼンシュトックの脳裏にそんな考えがちらつ き始めたのは1938(昭和13)年頃からのことで あったろう。その年、ナチス・ドイツは日本との 親善に特に重きを置き始めた。アジアにおいて は日本を味方に。そう考えるヨアヒム・フォン・ リッペントロップがヒトラーの内閣の外務大臣 に就任したからである。

ユダヤ人音楽家のローゼンシュトックがナチ スの反ユダヤ主義的政策に耐えかねて、新交 響楽団にポストを求め、ドイツから日本に逃れ 出てきたのは1936(昭和11)年の夏のこと。そ れからすぐの同年秋には、日独防共協定が結 ばれてしまった。ローゼンシュトックを追いかけ てくる足音がもう聞こえ始めた。しかし防共協 定というのはそれほど深い間柄を約束するもの ではない。たとえば1937(昭和12)年に日中戦 争が始まると、ドイツは軍事顧問団を活躍させ、 日本の敵の側たる、蔣介石の国民党政府を大 いに助けた。ドイツはその頃まで、日本と中国を りょうてんぴん 両天秤にかけていたのである。 もちろん日本が ナチスの真似をして過激な反ユダヤ主義に走 るということも国家の姿勢としてはずっとなかっ たし、今後もないように思われた。とはいえ、そ れでもゆっくりと、ローゼンシュトックの東京で の居心地は良くなくなっていったのだが。

1940(昭和15)年の年が明けて間もなくのこ とであろう。欧州では前年秋からついに第2次 世界大戦が始まっている。日本は日中戦争4年 目を迎え、おまけに「皇紀2600年」の奉祝行事 が目白押しだ。そんなとき、東京のローゼンシュ

評論 家の片山 年のの 杜秀さんが N 響創 7 百 周 時代背景とともにN響の 年に向 ゖ N H K F M 歴史をひもときます。 クラ シックの 迷 宮 0 最 Ń 終回 1 ソナリティとしても ば 第二次世界大戦勃発 ぉ 馴 染 B Ó 思想 H 米開

史研究者で音 戦へといたる

楽

新交響楽団が日本交響楽団と改称し財団法人化して敗戦を迎えるまでを描きます。

況下、

П

(最終回)

寸

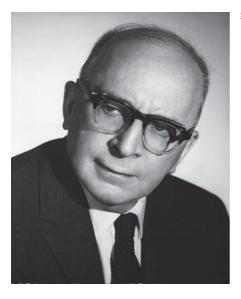
H

交響楽団

Ш

Morihide Katayama

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO



トックに客演依頼の郵便が届いた。テルアビブ からである。パレスチナ管弦楽団を振りに来な いかという。今日のイスラエル・フィルハーモニー 管弦楽団のことだ。ユダヤ人は19世紀のうち から、オスマン帝国支配下のパレスチナで土地 を購入し移住し始めていた。第1次世界大戦 後、パレスチナが英国の委任統治領になると、 その流れは強まった。そうして新たに建設され ていっていたパレスチナのユダヤ人社会にも、 一流のオーケストラが欲しい。パレスチナにはか くも優れた交響楽団があると世界に宣伝し、ユ ダヤ人の独立国家建設の一助としたい。ロシ ア帝国治下のポーランドで生まれたユダヤ人 ヴァイオリスト、ブロニスラフ・フーベルマンが提 唱者となって、テルアビブにユダヤ人演奏家を 集め、パレスチナ管弦楽団が結成されたのは、 1936年のことである。

そして、このオーケストラの誕生に、ローゼンシュトックは関わりがなくはなかった。1936年の早い時期、彼がまだ行き先に日本という選択肢が出てくるとは夢にも思わず、米国か英

国への亡命の可能性を模索していた頃、短期 滞在したニューヨークで、彼はフーベルマンの 相談に乗っている。大ヴァイオリニストはパレス チナでのオーケストラ作りの構想をローゼンシュ トックに打ち明けた。そのためにどんなユダヤ 人演奏家をどのようにかの地に集めたらよい かと相談してきた。なぜならローゼンシュトック は、ヒトラー政権誕生後のベルリンで、演奏機 会を限られていったユダヤ人たちを集め、ユダ ヤ人だけのオーケストラを結成し、指揮をしてい た時期があったからである。この団体の活動 は短期に終わったものの、技量優秀な名オー ケストラとしてベルリン楽壇の話題を呼んだ。明 日をも知れぬドイツのユダヤ人に東の間でも生 きる希望を与えた。ユダヤ人だけで一流楽団 を作り、その存在をアピールしてみせる! そうい う道ではローゼンシュトックが大先達であり、彼 の仕方をモデルにパレスチナ管弦楽団のアイデ アも発展し実現に向かったともいえる。だから フーベルマンはローゼンシュトックに筋を通して おきたかったのだろう。

その相談の席でヴァイオリニストは指揮者に、 パレスチナ管弦楽団の記念すべき創立演奏会 をトスカニーニに頼みたいと話したという。反 ファシズムの立場を取る、非ユダヤ人の巨匠に 振ってもらうのが、新しいオーケストラの性格付 けに欠かせないということなのだろう。その翌 日、ローゼンシュトックはパーティでトスカニーニ と一緒だった。トスカニーニはローゼンシュトッ クの師匠ではないが、彼をなにかと引き立てて くれる恩人である。そのときトスカニーニにフー ベルマンのマネージャーから電話がかかってき たという。昨日からローゼンシュトックの知って いた件だ。パレスチナ管弦楽団創立演奏会の 指揮の依頼である。というわけでローゼンシュ トックはパレスチナ管弦楽団の誕生史に欠か せぬ人物なのであった。そんな彼にテルアビブ から客演依頼が来るのはいかにものことだった。

ローゼンシュトックは大乗り気。新交響楽団 の仕事を何か月か休んでパレスチナに行こう。 旅程を考えた。海路で紅海からスエズ運河に 入り、途中から陸路でテルアビブへ。ローゼン シュトックは駐日英国大使館に出かけた。英国 はローゼンシュトックのパレスチナ入りを認める という。だがそこで迷いが生じた。本当に無事 に辿り着けるのか。英独は激しく戦っている。イ ンド洋に紅海にスエズ運河。どこで足止めを食 うとも限らない。パレスチナ管弦楽団の日程に 間に合わず、日本にも戻りにくくなるかもしれな い。新交響楽団は少なくとも今のところ、あい かわらず自分のオーケストラなのだ。日独は外 交的に接近を続けているようだが、日本におい てナチスを真似した反ユダヤ主義が、今後、急 に燃え広がってゆくとは思えない。このまま東 京にいたほうが音楽を続けられる可能性は高 いのではないか。たしかに戦時下の国威発揚 のために日本人指揮者を厚く起用すべきだとい

う意見があるとも耳に入ってくる。でも現時点 では適任者が他にないということで、ローゼン シュトックの地位は保たれ続けている。が、もし も敢えて長期不在にするとなれば話は違ってこ よう。近衛秀麿も欧州に長く出かけ過ぎたせい で、楽団員の"陰謀"や"造反"を招き、追い出 されたではないか。海外から戻れず、日本での ポストをなくし、さまよえるユダヤ人を地で行く。 よろしくない。いや、無事にパレスチナに辿り着 けば、そのまま居残る手もあるかもしれない。で も戦火が中近東に拡大する可能性もさかんに 取りざたされていた。ドイツ軍はパレスチナに来 るかもしれない。飛んで火にいる夏の虫になり かねない。ローゼンシュトックの東京での英米 の友人たちはパレスチナ行きにこぞって反対し たという。指揮者はテルアビブに「はなはだ残 念ながら|と電報を打った。

正しい判断だったろうか。結局、第2次世界大戦の終わるまで枢軸側の軍隊の手がパレスチナに及ぶことはなかった。そして日本は1940(昭和15)年9月、独伊と三国同盟を結んだ。それまでの防共協定とはレベルが違う。運命共同体的な軍事同盟としての性格を強く持つ。これを機に日本でも、反ユダヤ主義を唱えることが時流に即していると考えたがる政治家や軍人や知識人が増殖してくる。

とはいえまだしばらくは大丈夫。ローゼンシュトックと新交響楽団の1941(昭和16)年の定期公演は、1月の第222回で始まるが、そのプログラムのメインの曲目はいきなり、ナチスの支配領域では禁止されているユダヤ人作曲家、マーラーの大作《大地の歌》ときたものだ。キリリとした解釈で日比谷公会堂に集った心ある聴衆を賞撼させたと伝わる。なにやら終末的な凄味やえぐ味があったのであろう。独唱は四家で子と木下保だった。そして春からはモー

ツァルトがずっと主役になって横串を通す。5月 の第226回(実際の公演日は事情により延期されて 6月にずれ込む)では《交響曲第41番》、9月の第 228回では《同第39番》と《歌劇 「コシ・ファン・ トゥッテ」》の序曲、10月の第229回では《歌劇 「魔笛」》の序曲と《交響曲第40番》、11月の 第230回では《歌劇「ドン・ジョヴァンニ」》の序 曲と再び《交響曲第41番》と《ピアノ協奏曲第 26番「戴冠式」》(独奏は草間加壽子、のちに安川姓 となる)。さらに12月の第231回では《歌劇「フィ ガロの結婚!》を演奏会形式で。日付は3日と翌 4日。4日後の12月8日には日米開戦だ。歌い 手は三宅春恵、関種子、加古三枝子、川崎静 子、戸田敏子、柴田睦陸、中山悌一、伊藤武 雄、矢田部勁吉、栗本正。戦後に活躍する当 時の若手新人が大幅に登用されている。ちな みにモーツァルトのなかった6月の第227回はと いうとハイドンの《オラトリオ「四季」》。成城合唱 団などによる臨時の大合唱団を伴った。

新交響楽団の「モーツァルト・イヤー」

なぜ1941(昭和16)年にモーツァルト?まずは没後150年だったからである。しかも、モーツァルトをたくさん取り上げやすい時期にもなっていたからである。新交響楽団は近衛秀麿時代からベートーヴェンを集中して連ねることはいくどかやっているけれど、モーツァルトをここまで定期で取り上げるのは初めてといってよい。だいたい刻苦勉励型に聞こえるベートーヴェンは、懸命に右肩上がりをめざして努力するこの国の人々の姿と重なるところもあって、日本でも大正期から人気が高かったのだが、天才型で能天気な音楽とも受け取られがちだったモーツァルトは現実から遠いところにいるように思わ

れ、ベートーヴェンほどには愛されてこなかった。 それは欧米でも同じであろう。ところが、第1次 世界大戦後、重々しく情緒過多で厚ぼったく暑 苦しいものに反発する反ロマン主義や新古典 主義が、西洋の作曲の世界にも演奏の世界に も強く波打って、ドライで明快ですっきりくっきり しハキハキと運動性に富んだ表現が求められ るようになると、モーツァルトは新時代のアイドル として急速に祭り上げられていった。ローゼン シュトックの芸風もそうした潮流に棹さしている。 時代は悲劇的なマーラーを求めもするが、機能 的なモーツァルトもまた待望していた。そこに没 後150年の時機到来。まとめてやるしかないで はないか。

ところで、モーツァルトの音楽が機能的という ことは、無駄なく経済的ということともつながる。 端的にいえばその編成だ。モーツァルトを演奏 するオーケストラのサイズは小さめですむ。そこ がまたよかった。なにしろ1941年は日中戦争 が始まって5年目だ。年末には太平洋や東南ア ジアなどでの戦争がそこに加わる。大動員の 季節なのだ。新交響楽団のメンバーにも特に 若手となれば召集令状は届けられる。オーケス トラは慢性的な人手不足に陥る。パートによっ てはエキストラが容易に見つからない。1941 年5月開催予定の第226回定期が翌月に延 期されたのも、楽団の急な欠員を埋められな かったからだという。この回は、モーツァルトの 《交響曲第41番》に、プロコフィエフの《ピアノ 協奏曲第3番》とラヴェルの《バレエ音楽「ダフ ニスとクロエ | 》の第2組曲を組み合わせていた。 特にラヴェルは大編成。目立つ楽器の演奏者 が足りなくなってしまったらしい。それで延期。 モーツァルトやベートーヴェンをやっていればそ うなることは少なかろう。危機管理や労務管理 の面からも、あるいは非常時下での練習時間

を合理化してゆくためにも、古典派のレパート リーはとても好ましかった。

モーツァルトを取り上げたらよい理由はまだある。モーツァルトは日独伊三国同盟時代を意識した場合にもなかなか好ましい選択だった。ナチスはドイツとオーストリアの融和をはかるためにもモーツァルトの"ドイツ性"を強調し、日本の識者もその影響を受けがちだった。たとえばモーツァルトのメロディはドイツ・オーストリアの民衆が伝承してきた民謡旋律と深く結びついているのだという意見である。モーツァルトの音楽はゲルマンの一種の民族主義というわけだ。ローゼンシュトックには受け入れがたかったかもしれないが、この時代にモーツァルトを前面に押し出すときの大義名分にはなった。

それからなおもうひとつ。モーツァルトのシリー ズの合間にハイドンの《四季》が取り上げられて いることにも注目しよう。ハイドンとモーツァルト の同時代性。それもある。が、ここで問題にし たいのは合唱だ。日中戦争が長期化すると判 断されてから、近衛秀麿の兄、文麿の内閣が 主導して国家総動員体制が作られてゆくが、そ れはつまり軍需産業に国力を傾注することで、 労働者を膨大に集中し動員し、合理的に管理 し、しかも不満を少なく職場を平和に保たねば ならぬということだ。そのためには、北風を吹 き付け、お尻を叩いていてはだめだ。かえって 効率が落ちる。大切なのは慰安だ。たとえば職 場で余暇に合唱をやる。学校でも共同性・集 団性を涵養するために体操もだが合唱をさか んにやる。戦後日本の合唱界の興隆は、こうし た戦時期の仕掛けが戦後民主主義に適応して、 生き残り、回り続けた結果であろう。かくして新 交響楽団をはじめとするオーケストラは、高度な 修練を要する器楽奏者の不足に直面する一方、 難易度がそこそこのカンタータやオラトリオの合

唱団を都合することについてはかえって容易になり、そういう演目が社会的にも期待されることになるのである。本格的な管弦楽との共演はことにアマチュア合唱団の演奏の喜びを増幅し、そのメンバーが精神の高揚を忘れぬうちに職場や学校に帰れば、そこにはポジティヴな循環がもたらされうるだろう。1941年の新交響楽団の「モーツァルト・イヤー」は作曲家の没後150年という記念年にとどまらず、同時代の諸相ともさまざまに切り結んでいた。

日米開戦

実はローゼンシュトックは、モーツァルトの演 奏に力を入れていた1941(昭和16)年に、どこ か途中で新交響楽団を捨てて米国に移ろうと 思い詰めていた。6月の23日と24日の定期公 演でハイドンの《四季》を合唱団の巧演によって 成功に導いた彼は、恒例の夏休み期間に入っ た。そのときふと気づいた。日独伊三国同盟が 結ばれて1年近く。ついに日本における民間の 反ユダヤ主義運動がそれなりに高揚してきてい ることを。いつ暴力を振るわれるかもしれない。 さすがに潮時ではないか。ローゼンシュトック はパレスチナ行きを断念した頃から、いざという ときは米国に逃れるつもりで、駐日米国大使館 に渡りをつけていた。1936(昭和11)年に日本 に来てしまったけれど、米国に行ければ行きた かったのがローゼンシュトックの本音だったろう。 ついにその時が来た。9月の定期は振らないで、 新交響楽団との契約をただちに打ち切り、一刻 も早く船に乗ろう。そのためにはむろん米国の 査証が必要だ。ローゼンシュトックはすぐにもら えるつもりでいた。そのために米国の外交官た ちとも、日頃から仲良くしていたのだ。

しかし話がもう違っていた。時代は進展する。 駐日の米国領事の裁量で出せていた査証が、 つい最近から、本国の審査を経ないと発行で きなくなったという。仕組みが変わってしまった。 第2次世界大戦の激化と日米関係の悪化のゆ えだろう。ローゼンシュトックは逃げ遅れた。そ れでも米本国での審査を依頼し、許可が出れ ば、いつでも次回以降の新交響楽団との演奏 会をキャンセルして出国するつもりでひそかに 準備していた。駐日ドイツ大使館にはユダヤ人 を弾圧し虐待するプロフェッショナルも紛れ込ん できている。彼らは在日ユダヤの著名人として ローゼンシュトックをマークしている。ナチスが幅 を利かせるドイツの友邦にはやはりいられない。 でも12月に《フィガロの結婚》を演奏しても、ま だ米国からの吉報はもたらされない。そのまま たちまち真珠湾攻撃まで行ってしまった。

希望は断たれた。ローゼンシュトックは戦争が終わるまで、日本で暮らしているしか選択肢がなくなった。12月8日以降、すぐ次の新交響楽団とのスケジュールもあった。12日から16日まで。大阪と名古屋への演奏旅行である。大阪で3回。名古屋で1回。プログラムは全部違う。モーツァルトの《交響曲第41番》、ドヴォルザークの《同第8番》、ストラヴィンスキーの《バレエ音楽「火の鳥」》からの組曲などで構成されていた。でも出演に"待った"がかかった。ナチスから逃れてきたユダヤ人演奏家を今後の日本でどう扱うか。日本が対米開戦し、"盟邦ドイツ"もそれに合わせて米国と開戦するとなると、これまでとは事情が違ってくる。ローゼンシュトックはとりあえず降板させられた。

代役をどうする? こんなときは指揮もする首席チェロ奏者でローゼンシュトック流免許皆伝の齋藤秀雄の出番と相場は決まっていたはずだが、齋藤は後に述べる事情で退団したばか

りだった。そこで山田和男に白羽の矢が立った。 彼はのちに改名を重ねる。夏精を経て一雄となる。姓名判断に従って、作の字に竹冠を付けて改名した山田耕筰に、とても可愛がられた彼は、やはり占っては名を変えたがる人だった。

「突貫小僧」山田和男登場

山田和男。1912(大正元)年生まれ。当時29 歳。作曲家としては上野の東京音楽学校(現東 京藝術大学音楽学部) でクラウス・プリングスハイ ムに師事し、師匠譲りのマーラー崇拝者として すでに名が通っていた。けれど、本人は作曲よ りも指揮に比重をかけたくなった。自作自演を しているうち指揮に目覚めてしまったのである。 それでその道の修業を本格的に始めたばかり。 1940(昭和15)年からローゼンシュトックに指揮 法を個人的に師事し、1941(昭和16)年9月か らローゼンシュトックのアシスタントとして新交 響楽団との練習現場に付き添い、ありとあらゆ る下働きをこなしていた。しかし代役は12月の 話だから、アシスタント就任からまだ3か月しか 経っていない。でも他に適役がいない。山田は まさに幸運児だった。そのときまでプロの交響 楽団を相手にした本番の指揮をまだ数えるほ どしかしたことがなかった。それでもやるとなっ たらやるしかない。東海道線の列車の中でス コアを勉強し続けて、とにかく練習してはすぐに 本番。若き山田の指揮は後年とは違う。おそら く1960年代後半あたりからスタイルが変容して 独特に巨匠化するのだが、壮年期までの山田 はローゼンシュトックの影響をとても素直かつ 絶大にこうむって機能的で押しの強い指揮を めざしていた。かといって同じくローゼンシュトッ クから出た齋藤秀雄とはだいぶん異なる。齋

藤は師匠から、音楽を明晰かつ細かにドライに ハードボイルドなタッチで几帳面に分節して解 像度を上げてゆく、まさに新古典的で冷徹な仕 方を受け継いで発展させたのだといえよう。け れど、壮年期までの山田は、ローゼンシュトック に多大な影響を与えたトスカニーニのしごくよう な筋肉質で前進的な指揮に先祖返りしている かのような具合である。馬力の強いモーター系 だ。あるいは突貫小僧だ。山田とローゼンシュ トックの共通点は小柄ということ。にもかかわら ず大管弦楽にクリアで決然たる指示を発信しよ うとする。大きく動いて火の玉のようになる。そ こに突貫小僧の系譜が生まれるのだ。山田は 大阪と名古屋の演奏をあまりに必死に我を忘 れてやったので、終わると燃え尽きてしまい、ど こをどう振っていたか、記憶がまったく残らな かったという。

そんな山田に新交響楽団は合格点を出した ようだ。1942(昭和17)年1月の第232回定期 ではローゼンシュトックがいったん復帰するが、 リハーサルで揉め事があり、曲目も変更され、 ローゼンシュトックはオーケストラの技量が後述 する理由で急に落ちてしまったとも感じ、米国 への脱出の夢も挫けてやる気も下がってしまっ たのか、第232回を最後に新交響楽団の仕事 を辞す気になる。結局、9月の第238回定期に 戻ってきてモーツァルトの《レクイエム》を振るの だが、ということはつまり、第233回から第237 回まではローゼンシュトックは振らなかったのだ。 その5回のうち4回は山田が、もう1回は尾高尚 忠が振った。これは事件だ。1936(昭和11)年 9月の第170回定期から1942年の第232回ま で、足かけ7年、新交響楽団の他の演奏会や ラジオ向け演奏はともかく、定期公演の指揮台



山田和男が指揮した第236回定期公演



にはローゼンシュトックが上がり続けていた。それがついに第233回を山田が担当したことで途切れた。第238回で復帰したといっても、そのあとはまた毎回ローゼンシュトックという状態にはもう戻らない。オーケストラの活動方針として新たに立てられた三本柱のひとつに日本人指揮者を積極的に起用すると明記されたからである。結果、第238回以降は、ローゼンシュトック、山田、尾高のトロイカ体制が、1944(昭和19)年の初めまで続いていく。

財団法人日本交響楽団の誕生

さて、いくつか謎を残したまま、ここまで来ている。新交響楽団の演奏水準を保ち、伸長させるための決定的な役割を近衛秀麿の時代から果たし続けてきた齋藤秀雄がなぜ辞めた

のか。1942(昭和17)年の頭の段階でローゼンシュトックが新交響楽団の技量をにわかに悲観し、ポストから降りようとしたのはどうしてか。齋藤が抜けたこととやはり関係するのか。それから1942年のいつ、どうしてオーケストラの新たな活動方針が示されたのだろう? 戦争と関係があるのだろうか。

話は1940(昭和15)年に遡る。この「皇紀 2600年」の年から新交響楽団の生き残りを懸けた大計画が起動した。オーケストラの財団法人化である。新交響楽団は1935(昭和10)年に組合組織化された。楽団員たちが自主運営する団体になった。日本放送協会はあくまでスポンサーである。放送番組にオーケストラをたくさん出演させ、ギャランティも払えば、それとは別にまとまった補助金を与える。それと演奏会のチケット収入でオーケストラはやりくりしてゆく。公的性格を有する放送局とのつながりは深 いが、新交響楽団はあくまで民間市井の独立した一音楽団体である。芸能の興行団体とそんなには変わらない。とりあえずはそれでなんとかなってきた。が、1937(昭和12)年からの日中戦争が泥沼化すると、今のままではすまなくなってきた。クラシック音楽は非常時には不要不急な高踏的芸術であり、あるいはとりあえずなくてもかまわない高尚なタイプの娯楽であると、国家や社会が考えるようになれば、戦時体制が進むなか、たとえば解散やよそとの合同を命じられてしまう可能性とて、なくはない。

だいたいクラシック音楽とは西洋音楽だ。 オーケストラは近代西洋の文化だ。日中戦争が 進むにつれ、ナショナリズムが高まると、なに しろ日本のナショナリズムだから、東洋やアジ アと結びつけられ、攘夷思想とつながりやすい。 西洋由来のものを排撃する論調もなにかと生 まれる。オーケストラの活動は社会の中できわ どくなってくる可能性があるのだ。そのときたん なる一民間団体ではあまりに不安である。日本 放送協会との結びつきがもっと強固になればあ りがたい。戦争とは国家の財政規模をふくらま せ、税金の種類や額を増やす傾向を有するか ら、その点でも負担が軽くなるような仕掛けが ないと、オーケストラの経営はもたなくなってこよ う。そこで浮上するのが財団法人化だ。日本に も明治時代からこの仕組みはある。社会事業 や教育事業などを行う財団法人がいろいろと 認可され、存在する。新交響楽団もそこに加わ りたい。財団法人になれば利潤を追求して元 手をため込むわけにはゆかなくなるが、税制で はさまざまに優遇される。交響楽団の経営形態 としてはそれで十分なのだ。どう転んでも大して 儲からないのに、戦時体制下の重い課税の標 的とされてしまえば潰れるのみだ。

ではどうすれば財団法人として認められ、税

制の面で優遇されるのか。財団法人とはこの場合、公益性と不可分である。公の役に立つと見なされるから優遇措置も与えられる。そして公益が私益や私的自由に優先するとの考え方は全体主義的な思想の方向ともよく合致する。だからオーケストラは戦時下の公益を体現するものとして国家社会から認知されねばならない。

その場合、次のような理論武装が必要となる だろう。そもそも交響楽はたんなる暇人の慰安 ではない。有閑階級の荒臭でもない。管弦楽 団はマーチだって軍歌だってなんだって演奏で きる。兵士や労働者や学徒を、オーケストラな らその響きで励まし慰め鼓舞することができる。 日本の伝統音楽もオーケストレーションをほど こせば管弦楽のレパートリーだ。近衛秀麿編曲 の西洋管弦楽版《越天楽》を思え。日本の雅楽 のアンサンブルをわざわざ海外に派遣せずとも、 交響楽団のあるところであれば、世界のどこで も、西洋管弦楽によって雅楽の響きに上手に 近似させ、日本文化の素晴しさを発揚できるで はないか。交響楽団は西洋音楽にしか対応し ないから、東洋やアジアの価値を強調したい 時流からすれば不要不急だとの考えがあるとす れば、まったくの間違いなのだ。西洋管弦楽は 洋の東西の価値を共有させ、流通させ、日本 的なるものを広く世界に、来たるべき「大東亜 共栄圏 | に弘めるためのツールなのである。日 本の指揮者や日本人のオーケストラが活躍すれ ば、それは日本国内のみならず、全世界に日本 文化の現代性や未来性や創造性や進取性を 伝えることにただちにつながるだろう。

それからもちろん日本人の作曲家を、管弦楽の分野でも、もっともっと活躍させねばならない。日本の伝統、東洋の理想、西洋の手法を上手に相乗させた管弦楽作品が日本で作ら

れていることを内外に示してこそ、現代日本文化の高度な同時代性が証明されるのだ。また日本人が西洋の音楽を立派に演奏することも国威発揚につながるだろう。日本文化はたんに日本性・東洋性・アジア性を有するのみならず、世界性をも表現せねばならず、そのために西洋的価値観と対決している今日であるがゆえにかえって、西洋音楽をあわよくば西洋人以上に演奏できるほどの文化的度量を発信しなければならない。

そう、発信である。東京や大阪だけで生演 奏しているだけでは伝達の幅があまりに限られ る。交響楽は電波と結びついてこそ国威発揚 の実を挙げられる。放送局と交響楽団がこのよ うな時局においてますますセットにならねばな らぬのには、そういう理由がある。さらに付け 加えれば、仮に敵に空襲を受けて首都が表向 き、廃墟と化そうとも、交響楽団の演奏がなお 放送局を通じて生中継され、国際放送で広く 世界に届けば、それはなおその国と社会が高 度な精神性と集団の規律を保って存在してい ることのなによりのあかしになる。そういうときに ピアニストや歌い手や尺八奏者がひとりでマイ クの前に名演を響かせたとしても、それはたま たまひとり生き残っていることを意味するに過ぎ なかろう。しかし100人の交響楽団が演奏して いればまるで違ったメッセージを送ることができ る。この国はまだまだ大丈夫だと。

平時であれば公益性はもっといくらでもニュートラルに論じられる。が、日中戦争以来、西洋排撃の雰囲気がエスカレートしがちな非常時のこの国にあって西洋式の交響楽団に公益性を付与するための論理となれば、このようなものになるであろう。1940(昭和15)年から新交響楽団は日本放送協会や政府諸機関と折ば、重ね、1942(昭和17)年4月10日に財団法

人としての新しいオーケストラの設立総会を開催するにいたった。新交響楽団と日本放送協会を共同設立者とするそのオーケストラの名は、日本交響楽団。この国を代表する楽団との意と、日本放送協会の日本とがかけられているのだろう。

その財団法人の格を取るためには、むろん 険しい道のりがあった。構成人員の資格も厳 重に審査された。多少のアルバイトはともかく、 明らかに兼職していて利益相反になるような楽 団員には、やめてもらうのがよかろう。齋藤秀 雄はそこに該当した。演奏家個人としてレコー ド会社と契約していた。指揮をもっとやりたい 齋藤はこれを機に退団することにした。同様の 例はいくつもあった。よそでも肩書のある人は それなりの実力者が多い。彼らの中から辞め る者が出てくる。自分が辞めるのにあいつは辞 めないのか。スパイ活動をして放送協会などに あらぬ噂まで告げ口をしている奴がいるのでは ないか。1941(昭和16)年から翌年初頭にかけ、 団内のまとまりが失われてゆく。ローゼンシュ トックの信頼していたメンバーから退団者が幾 人も出る。齋藤を含めて。演奏技量の一時的 低下も生じざるを得ない。混乱、混乱、また混 乱。それは公益性のなきものは暴力的に圧殺 されてゆく戦時体制の中でオーケストラが生き 残ろうとするための苦しみゆえに生じた。

戦時下に花開いた日本人作品

こうして誕生した財団法人日本交響楽団は、1942年9月の第238回定期公演から、時局に即したオーケストラの公益性を実現していくために、3つの柱を立てた。ひとつはすでに触れた日本人指揮者の重視。すなわち山田と尾

高、遅れて高田信一の登用。もうひとつは本場 の指揮者による西洋音楽の優れた演奏を続け ていくこと。とりあえずはローゼンシュトックにブ ラームスを。ローゼンシュトックを守り抜き、なる べく長く指揮してもらい続けるための工夫であ る。残るひとつは日本人作品の演奏。第238回 から1945(昭和20)年5月の第265回まで、定期 公演で毎回必ず、日本交響楽団は日本人作品 を演奏した。その他のコンサートや放送を含め て日本交響楽団の演奏した日本人作品は数知 れぬほどということになる。国内の文化芸術を 統制する立場の内閣情報局は、この日本交響 楽団を模範として、オーケストラから楽器の独奏 まで、すべての演奏会に日本の曲を入れるべし との指示を与え、日本人作品の需要は猛烈に 高まった。

ここでは、この時期に日本交響楽団が定期 で取り上げた日本の曲とその指揮者を示そう。 指揮者は曲の末尾に記す。山田は(山)、尾高 は(尾)、ローゼンシュトックは(ロ)と略する。池 譲の《序曲「大いなる勲」》(高田信一)、伊福部 昭の《土俗的三連画》(ロ)と《交響譚詩》(山)と 《フィリッピン国民に贈る管弦楽序曲》(尾)、大 木正夫《5つのお話》(ロ)、小倉館の《交響組 曲》(山)、尾崎宗吉《田園曲》(山)、尾高尚忠 の《蘆屋乙女》(ロ)と《いくさうた》(尾)と《斎迫 歌》(尾)、貴島清彦の《序曲イ長調》(尾)、江 **** 文也の《北京点描》(ロ)と《藍碧の空に鳴りひび 〈鳩笛に》(山)、近衛秀麿編曲《越天楽》(ロ)、 小船幸次郎《祭の頃》(ロ)、高田信一《変奏曲 と遁走曲》(ロ)、早坂文雄《古代の舞曲》(へ ルムート・フェルマー)、平尾貴四男の《交響詩曲 「砧」》(尾)と《古代讃歌》(ロ)、深井中郎の《パ ロディ的な4楽章》(ロ)と《海原》(山)と《英魂を 送る》(山)、箕作秋吉《2つの詩》(ロ)と《小交 響曲》(尾)と《序曲「大地を歩む」》(山)、諸井 三郎《交響的2楽章》(尾)、山田和男の《小交響詩「若者のうたへる歌」》(山)と《おほむたから》(山)、山田耕筰の《舞踊交響曲「マグダラのマリア」》(ロ)。

1945年6月には、第266回と第267回の定期演奏会が、いつものように日比谷公会堂で開かれた。本来は第265~267回が順に4月、5月、6月と催されるべきだったのだが、ずれて後ろが詰まってしまった。第266回も第267回も指揮は尾高。いずれも日本人作品は取り上げられなかった。取り上げる原則は生きていたのだが、楽譜を用意して練習する余裕も体力もなくなってしまっていたのだろう。2回ともベートーヴェンだけになった。第266回は交響曲の《第6番》と《第8番》。6月14日の第267回はなんと《交響曲第9番》である。

ドイツは前月に降伏し、東京もすでに焼け 野原。沖縄戦も終わりが目前だ。ローゼンシュ トックは1944(昭和19)年2月の第253回定期 で江文也やストラヴィンスキーの《ペトルーシカ》 を振ったのを最後に、反ユダヤ主義の波に呑 み込まれて楽壇を追われ、軽井沢に逼塞させ られていた。山田和男はというと春に本土を 離れて満洲に旅立っていた。敗戦まであと2か 月。1945年の春季の定期の最終回は《第9》の 「歓喜の歌」で締めくくられた。 東京高等音楽 学院と玉川学園の合唱団が出演。国威発揚 か、ブラック・ユーモアか、最後の祈りか。本土 決戦を前にしてのこの世の聞き納めか。それと も、たんにやりやすかっただけなのか。《第9》 は新交響楽団以来の十八番だし、練習の手間 もかからない。しかも戦争の最末期になっても 学校の合唱団はなお動員可能だった。

敗戦を挟んで予定どおり秋のシーズンが始まる。米戦艦ミズーリ艦上での降伏文書調印式が9月2日。それから12日後の14日と翌15日が

第268回定期。尾高の指揮で伊福部昭《土俗的三連画》とベートーヴェンの《交響曲第3番》、それから佐々木成子を独唱に迎えてワーグナー《ヴェーゼンドンクの5つの詩》が並んだ。日本人作品を必ず取り上げるとの1942(昭和17)年秋からの習慣がここで復活している。戦時体制がまだ継続していたともいえる。ともかくも1945年も、日本交響楽団の定期公演は多少のずれはあっても、このようにほぼ予定どおり、回数を守って行われていた。それは、"公益性"を貫

き、国家と社会の持続性を守ることを第一義に、 過酷な戦時にも優先的に存続を許された財団 法人日本交響楽団の宿命であった。

文 | 片山杜秀(かたやまもりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2024年11月1日付で水戸芸術館館長に就任。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』「ゴジラと日の丸」『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』「見果てぬ日本」『尊皇攘夷』「大楽必易」ほか著書多数。

『フィルハーモニー』2018年11月号から連載してきた片山杜秀氏による「N響百年史」は、 今回で最終回となります。

およそ6年半のあいだご愛読ありがとうございました。 これまでの連載は、WEB連載「NHK交響楽団のあゆみ」とあわせて、 N響創立100年の2026年に書籍化される予定です。こちらもご期待ください。

WEB連載 「NHK交響楽団のあゆみ」

2026年のN響創立100年に向けて、ホームページで 「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、 『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの 著書でも知られる、音楽ジャーナリスト・編集者の岩 野裕一氏。

終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。



https://www.nhkso.or.jp/ news/index.html

「N響百年史」過去の連載が PDFでご覧いただけます

N響ホームページでは『フィルハーモニー』の一部バックナンバーをPDFで公開しています。

片山杜秀氏による「N響百年史」連載は、第1回(2018年11月号)、第2回(2019年2月号)、第3回(2019年5月号)、第4回(2019年6月号)、以降は毎号掲載されています。



https://www.nhkso.or.jp/ about/archives/philharmony/ index.html

2025年9月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

ファビオ・ルイージは、2028年8月まで、首席指揮者の契約を延長した。第2000回定期やヨーロッパ公演など、記憶に残る時間を共有した私たちは、次の3年間へと飛翔する。後期ロマン派を中心に、より野心的なレパートリーにも挑むつもりだ。ご期待いただきたい。

宿願のフランツ・シュミットで シーズン始動

[Aプログラム] は、ルイージの宿願だったフランツ・シュミット。その最高傑作と言われる《交響曲第4番》は、痛切なトランペット・ソロで始まる。作曲者がレクイエムと呼んだ通り、これは亡くなった娘への哀歌なのだろう。チェロのモノローグや葬送行進曲、「死の舞踏」を思わせるスケルツォを経て、音楽は破滅的な結末へと向かう。最後に再び現れるのは、トランペットが奏でるあの主題。だが不思議なことに、弦の弱奏を伴い虚空に消えていく旋律は、最初とはまるで違ったものに聴こえる。これは慰めなのか、魂の浄化なのか。いずれにせよ、聴き手は"人生の旅路"と重ね合わせて考えないではいられない。

前半はベートーヴェン《ピアノ協奏曲第5番「皇帝」》。彼の確立した古典の様式美が、120年後のシュミットに受け継がれたことは、2曲を続けて聴くことで得心できるだろう。ウィー

ンの伝統のつながりを意識した組み合わせである。イェフィム・ブロンフマンは、重量級の 迫力でロシア音楽を弾きこなすイメージが強いが、実は古典も得意にしている。シーズンの 幕開けにふさわしい熱演を期待したい。

手応え十分 ルイージのメンデルスゾーン

[Bプログラム] は《交響曲第4番「イタリア」》。カラフルで情熱的、歌心にも富んだルイージの音楽作りは、メンデルスゾーンに向いている。生き生きとした主題で始まる第1楽章から、民俗舞踊サルタレロの狂騒で終わる第4楽章まで、息もつかせずに駆け抜けるスリリングな展開となりそうだ。

ベートーヴェン《ヴァイオリン協奏曲》のソリスト、マリア・ドウエニャスはスペイン出身の若手。昨年末、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の来日公演で急な代役を務め、この曲を弾いた。総じて気品を保ちながら、ここぞという時にテンポを揺らして畳みかける演奏は、不朽の名曲の新しい魅力に気づかせてくれるものだった。別の共演者を得て、さらに一味違う表現が聴けるだろう。

武満徹《3つの映画音楽》では、無調からワルツまで、変化に富んだ曲想とともに、弦楽合奏のさまざまな表現の可能性が味わえる。今

年5月のヨーロッパ公演でも披露したが、各地で聴衆の心をつかみ、日本が誇るタケミツの普遍的な人気ぶりを再認識させられた。

初共演 そして26年ぶりの再会

先々の世代交代を視野に入れて、有望な 若手指揮者の招聘に力を入れている。ポペル カやペルトコスキに続き、[Cプログラム]でN 響デビューするのは、アメリカ出身のライアン・ バンクロフト。ロイヤル・ストックホルム・フィル ハーモニー管弦楽団の首席指揮者として、ま た英米を中心とする一流オケへの客演で、目 覚ましい活躍を続けている。

シベリウス《交響詩「4つの伝説」》は、フィン ランドの民族叙事詩『カレワラ』に基づく。冒険 心に富んだ物語の主人公レンミンカイネンさながらに、バンクロフトの生命力みなぎる指揮ぶりが見られるだろう。最も有名な第2曲〈トゥオネラの白鳥〉がそうであるように、この曲は太古の記憶、あの世への想念に結びついている。若きマエストロが音楽の深淵にどこまで迫れるのか、興味深い。

ドイツの民謡詩集に材を取ったマーラー《こどもの不思議な角笛》も、死者との交感や天上への憧れ、つまり現実を超えた世界に通じている点で、《4つの伝説》と共通する。トマス・ハンプソンは、かつての桂冠名誉指揮者サヴァリッシュが重用した名バリトン。懐かしく感じる方も多いだろう。なめらかな美声は健在と聞く。再会を楽しみに待ちたい。

[西川彰一/NHK交響楽団 芸術主幹]

A 9/13 ± 6:00pm 9/14 = 2:00pm

ベートーヴェン/ビアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 フランツ・シュミット/交響曲 第4番 ハ長調 指揮:ファビオ・ルイージ

NHKホール

9/18 * 7:00pm 0/10 \$\pm\$

サントリーホール

武満 徹/3つの映画音楽 ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61 メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス

tran Luorhath

9/26 ²/_{7:00pm} 9/27 ± 3

NHKホール

マーラー/こどもの不思議な角笛─「ラインの伝説」* 「トランペットが美しく鳴り響くところ」*「浮世の生活」* 「天上の生活」*「原光」* シベリウス/交響詩「4つの伝説」作品22

指揮:ライアン・バンクロフト バリトン:トマス・ハンプソン*

ピアノ:イェフィム・ブロンフマン



2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM



最高峰の指揮者、 ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。 オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール



± 6:00pm 🖪 2:00pm

Autumn

2025

September

第2042回

 $9/13 \pm 6:00 pm$

9/14 B 2:00pm

2025

October

第2046回

 $10/18 \pm 6:00 \text{pm}$

10/19 B 2:00pm

2025

November

第2048回

 $11/8|\pm|6:00pm$

11/9_日 2:00pm

ルイージがシーズン開幕に満を持して ライフワークに臨む

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

フランツ・シュミット/交響曲 第4番 ハ長調

指揮:ファビオ・ルイージ

ピアノ:イェフィム・ブロンフマン

マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲

メンデルスゾーン/交響曲 第2番 変ロ長調 作品52 [讃歌]*

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

ストラヴィンスキー/詩篇交響曲

ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー* メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト*

テノール:ティルマン・リヒディ*

合唱:スウェーデン放送合唱団

デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え 8年振りに定期公演に登場

メシアン/神の現存の3つの小典礼* ホルスト/組曲「惑星」作品32

指揮:シャルル・デュトワ

ピアノ:小菅 優* オンド・マルトノ:大矢素子*

女声合唱:東京オペラシンガーズ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400
	S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000



ı	一般	ユースチケット
	S ¥15,000	S ¥7,000
ì	A ¥12,500	A ¥6,000
۱	B ¥10,000	B ¥5,000
	C ¥8,000	C ¥4,000
	D ¥6,500	D ¥3,000
	E ¥4,500	E ¥2,000



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

Winter

2025

December

第2051回

 $11/29 \pm 6:00pm$

11/30 日 2:00pm

《人魚姫》を貫く 自己喪失と再生の物語

ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

ツェムリンスキー/交響詩「人魚姫」

指揮:ファビオ・ルイージ

ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス



	—般	ユースチケット
1	S ¥11,000	S ¥5,500
3	A ¥9,500	A ¥4,500
	B ¥7,600	B ¥3,500
	C ¥6,000	C ¥2,800
۱	D ¥5,000	D ¥1,800
Ť,	E ¥3,000	E ¥1,400

^{※12}月定期公演Aプログラムは 11月に開催いたします。

2026

2026

第2057回

January

ソヒエフ、満を持して N響でマーラーを初披露

マーラー/交響曲 第6番 イ短調 [悲劇的]

第2054回 指揮:トゥガン・ソヒエフ

± 6:00pm

1/18 目 2:00pm

February

6:00pm

名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー

シューマン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」 ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」

--「ジークフリートのラインの旅 |

「ジークフリートの葬送行進曲 「ブリュンヒルデの自己犠牲 | *

指揮:フィリップ・ジョルダン ソプラノ:タマラ・ウィルソン*



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D¥5,000	D¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400



٩	一般	ユースチケット
	S ¥10,000	S ¥5,000
1	A ¥8,500	A ¥4,000
Ï	B ¥6,500	B ¥3,100
	C ¥5,400	C ¥2,550
	D ¥4,300	D¥1,500
	E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2026 April

2/8 日 2:00pm

第2060回 ± 6:00pm

4/11

4/12 日 2:00pm

ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る

ハイドン/チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1

ブルックナー/交響曲 第9番 二短調

指揮:ファビオ・ルイージ チェロ:ヤン・フォーグラー

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

May

第2064回 5/23 ± 6:00pm

5/24 日 2:00pm

イ短調 作品102 ブラームス(シェーンベルク編) /ピアノ四重奏曲 第1番

ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム

ブラームス/ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲

ト短調 作品25

指揮:ミヒャエル・ザンデルリンク

ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ



ı	一般	ユースチケット
P	S ¥10,000	S ¥5,000
	A ¥8,500	A ¥4,000
	B ¥6,500	B ¥3,100
9	C ¥5,400	C ¥2,550
J	D ¥4,300	D¥1,500
7	E ¥2,200	E ¥1,000

2026

第2067回

6/13 ± 6:00pm

6/14 目 2:00pm

指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ

ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場

ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」 前奏曲

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第17番ト長調 K. 453 バルトーク/管弦楽のための協奏曲

一般 A ¥9.500 B ¥7.600 C¥6.000 D¥5.000 E ¥3,000

ユースチケット S ¥11,000 S ¥5.500 A ¥4.500 B ¥3.500 C ¥2.800 D¥1800 E ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) 一般 S ¥76,500 A ¥65,025 B ¥49,725 C ¥41,310 D ¥32,895 ユースチケット S ¥38,250 A ¥30,600 B ¥23,715 C ¥19,503 D ¥11,475 シーズン会員券(3回) S ¥26,850 A ¥22,824 B ¥17,454 C ¥14,499 D¥11.547 ユースチケット S ¥13,425 A ¥10,740 B ¥8,325 C¥6.849 D¥4,029

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

豊かな響きのサントリーホールで味わら名匠たちの音作り。 魅力あふれるソリストたちとの共演にも心躍る。

サントリーホール

★ 7:00pm 金 7:00pm



Autumn

2025

September

9/18 \star 7:00pm

9/19 全 7:00pm

2025

October

第2045回

10/9 \star 7:00pm

10/10 金 7:00pm フルート:セバスティアン・ジャコー

2025

November

第2050回

11/20 * 7:00pm

11/21 全 7:00pm

ルイージが浮き彫りにする 《イタリア》に刻まれた「光と陰」

武満 徹/3つの映画音楽

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61 メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

指揮:ファビオ・ルイージ

ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス

ブロムシュテットが蒸しむ

気品に満ちた北欧の傑作たち

グリーグ/組曲「ホルベアの時代から」作品40

ニルセン/フルート協奏曲

シベリウス/交響曲 第5番 変ホ長調 作品82

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

大きく羽ばたく俊英が

得意のドイツ・プログラムで再登場

シューマン/「マンフレッド | 序曲

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503 R. シュトラウス/交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:ラファエル・パヤーレ

ピアノ:エマニュエル・アックス



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C¥3,250
D¥5,500	D¥2,750



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C¥3,250
D¥5,500	D¥2,750



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C¥3,250
D¥5,500	D¥2,750

Winter

2025

December

第2052回

12/4 * 7:00pm

12/5 全 7:00pm

オーケストラと大オルガンが 名ホールで絢爛に双鳴するひととき

藤倉大/管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー

~ピエール・ブーレーズの思い出に~(2025)

[NHK交響楽団委嘱作品/世界初演]

フランク/交響的変奏曲*

サン・サーンス/交響曲第3番ハ短調作品78「オルガンつき」

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:トム・ボロー*



—般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C¥3,250
D¥5,500	D¥2,750

2026

January

第2056回 1/29 \star 7:00pm

1/30 全 7:00pm

2026

February

第2059回

2/19 未 7:00pm

2/20 金 7:00pm

お家芸のプロコフィエフ《第5番》を 13年振りにN響で指揮

ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)/

歌劇「ホヴァンシチナ | 一前奏曲「モスクワ川の夜明け | ショスタコーヴィチ/ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102 プロコフィエフ/交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:松田華音

待望の再登場! フルシャの ドヴォルザーク&ブラームス

ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53 ブラームス/セレナード 第1番 二長調 作品11

指揮:ヤクブ・フルシャ

ヴァイオリン:ヨゼフ・シュパチェク



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C ¥3,250
D¥5,500	D¥2,750



I	一般	ユースチケット
	S ¥12,000	S ¥6,000
1	A¥10,000	A ¥5,000
1	B ¥8,000	B ¥4,000
9	C¥6,500	C¥3,250
	D¥5,500	D¥2,750

Spring

2026 April

第2061回

 $4/16|*|^{7:00pm}$

4/17 金 7:00pm

モーツァルトとマーラーに通底する 絶対美の深淵に触れる

モーツァルト/クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622 マーラー/交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮:ファビオ・ルイージ

クラリネット:松本健司 (N響首席クラリネット奏者)

創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

須賀田礒太郎/交響的序曲 作品6 ヒンデミット/交響曲「画家マチス|

指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*

山田一雄/小交響詩「若者のうたへる歌 |

「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代日独作品の諸相



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C ¥3,250
D¥5,500	D¥2,750

2026

第2063回

Mav

 $5/14 \times | 7:00pm$

5/15 金 7:00pm

June

2026

第2066回

 $6/4 \pm 7:00 \text{pm}$

6/5 金 7:00pm

ドゥネーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選

オネゲル/交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ/歌曲集「夏の夜 | 作品7 イベール/寄港地

ドビュッシー/交響詩「海」

ハルトマン/葬送協奏曲*

指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C¥3,250
D¥5,500	D¥2,750



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C¥6,500	C¥3,250
D¥5,500	D¥2,750
(以上	 :、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥91,800	A ¥76,500	B ¥61,200	C ¥49,725	D ¥42,075
	ユースチケット	S ¥45,900	A ¥38,250	B ¥30,600	C ¥24,858	D ¥21,033

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM



豪華なマエストロ、ソリストたちが 王道の名曲でその個性を輝かせる。 今もっとも旬なアーティストの登場にも期待。

NHKホール



啻 7:00pm \pm 2:00pm



Autumn

2025

September

第2044回

9/26 全 7:00pm

 $9/27 \pm 2:00 \text{pm}$

2025

October

第2047回

10/24 全 7:00pm

10/25 ± 2:00pm

欧米メジャーオケを席巻する 情熱の指揮者がN響初登場

マーラー/こどもの不思議な角笛--「ラインの伝説 | * 「トランペットが美しく鳴り響くところ | * 「浮世の生活 | * 「天上の生活 | * 「原光 | *

シベリウス/交響詩「4つの伝説 | 作品22

指揮:ライアン・バンクロフト バリトン:トマス・ハンプソン*

巨匠と名ピアニストの飽くなき探究心が拓く 新たなブラームスの地平

ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンスネス



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

ユースチケット

S ¥5.000

A ¥4.000

B ¥3.100

C¥2,550

D¥1.500

E ¥1.000

S ¥10.000

A ¥8.500

B ¥6.500

C¥5,400

D¥4,300

E ¥2.200

2025

November

第2049回

11/14 全 7:00pm

11/15 ± 2:00pm 合唱:二期会合唱団*

当世随一の解釈者のタクトでラヴェルを味わい尽くす

ラヴェル生誕150年

ラヴェル/亡き王女のためのパヴァーヌ ラヴェル/組曲「クープランの墓| ラヴェル / バレエ音楽 「ダフニスとクロエ」 (全曲) *

指揮:シャルル・デュトワ



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

Winter

2025

December

第2053回

12/12 金 7:00pm

ニルセン最高峰の交響曲を ルイージ入魂の指揮で味わう

ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 または第2番 ヘ短調 作品21

ニルセン/交響曲 第4番 作品29 不滅 |

指揮:ファビオ・ルイージ

12/13 ± 2:00pm ピアノ:第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者



	—般	ユースチケット
ļ	S ¥11,000	S ¥5,500
	A ¥9,500	A ¥4,500
	B ¥7,600	B ¥3,500
3	C ¥6,000	C ¥2,800
and a	D¥5,000	D¥1,800
a division	E ¥3,000	E ¥1,400

2026

January

第2055回

1/23 金 7:00pm

1/24 ± 2:00pm

夢幻と高楊に誘う フランス・ロシアのナラティブな作品たち

ドビュッシー/ 牧神の午後への前奉曲 デュティユー/チェロ協奏曲[遥かなる遠い国へ] リムスキー・コルサコフ/組曲「サルタン皇帝の物語」作品57 ストラヴィンスキー / バレエ組曲 「火の鳥 | (1919年版)

指揮:トゥガン・ソヒエフ チェロ:上野通明



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400
-	

2026

February

第2058回

/13| $_{\pm}$ |7:00pm

14 ± 2:00pm

創立100年に問う N響設立者·近衛の《展覧会の絵》

創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

コダーイ/ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲 フンメル/トランペット協奏曲 ホ長調 ムソルグスキー(近衛秀麿編)/組曲「展覧会の絵| 指揮:ゲルゲイ・マダラシュ トランペット: 菊本和昭 (N響首席トランペット奏者)



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2026

April

第2062回

/**24** 金 7:00pm

 $4/25|\pm|2:00pm$

下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅

プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26 伊福部 昭/交響譚詩

─「4つの海の間奏曲」作品33a

指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平

2026

May

第2065回 5/29 全 7:00pm

5/30 ± 2:00pm

創立100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」 外山雄三/管弦楽のためのディヴェルティメント

ブリテン/歌劇「ピーター・グライムズ |

旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きショスタコーヴィチ《第4番》の真価

ヴァスクス/NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品 「タイトル未定/日本初演]

ショスタコーヴィチ/交響曲 第4番 ハ短調 作品43

指揮:アンドリス・ポーガ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

-般

S ¥10.000

A ¥8.500

B ¥6.500

C¥5,400

D¥4.300

E V2 200

E ¥2.200

ユースチケット

S ¥5.000

A ¥4.000

B ¥3.100

C ¥2.550

D¥1.500

E V1 000

2026

June

第2068回

6/19 \pm 7:00pm

 $6/20|\pm|2:00pm$

尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI、N響定期に初登場

シベリウス/アンダンテ・フェスティーヴォ シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ/交響曲 第3番 イ短調 作品44

指揮: 尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI



E #2,200	E #1,000		
一般	ユースチケッ		
S ¥10,000	S ¥5,000		
A ¥8,500	A ¥4,000		
B ¥6,500	B ¥3,100		
C ¥5,400	C ¥2,550		
D¥4,300	D¥1,500		

E ¥1.000 (以上、すべて税込)

年間会員券(9回) S ¥76,500 A ¥65,025 B ¥49,725 C ¥41,310 D¥32.895 ユースチケット S ¥38.250 A ¥30.600 B ¥23.715 C ¥19.503 D¥11.475 シーズン会員券(3回) 一般 S ¥26.850 A ¥22.824 B ¥17.454 C ¥14.499 D ¥11.547 ユースチケット S¥13,425 A¥10,740 B¥8,325 C ¥6,849 D¥4,029

チケットのご案内(定期公演 2025年9月~2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10~44%お得です!(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得 です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行)/2025年7月13日[日](一般)		
(10:00amからの受付)	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行)/2025年10月17日[金](一般)		
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行)/2026年2月14日[土](一般)		

料金(税込)

年間会員券 (9回)		S	Α	В	С	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	А	В	С	D
Aプログラム Cプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
CILIIIA	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

^()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)9・10・11月 12・1・2月2025年7月23日[水] (定期会員先行)/2025年7月27日[日] (一般)2025年10月22日[水] (定期会員先行)/2025年10月26日[日] (一般)4・5・6月2026年2月19日[木] (定期会員先行)/2026年2月23日[月・祝] (一般)		2025年7月23日[水] (定期会員先行) / 2025年7月27日[日] (一般)
		2025年10月22日[水](定期会員先行)/2025年10月26日[日](一般)
		2026年2月19日[木] (定期会員先行) / 2026年2月23日[月·祝] (一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円~で定期公演をお楽しみいただけます。 1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報でご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくは N響ホームページをご覧ください。

WEBチケット N響 https://nhkso.pia.jp お申し込み



N響ガイド | TEL 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm

- 定休日:土·日·祝日
- ●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業
- ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。











●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業

特別公演

6/26本 7:00pm | Music Tomorrow 2025

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:イェルク・ヴィトマン ヴァイオリン:辻 彩奈 トランペット:ホーカン・ハーデンベルガー

権代敦彦/時と永遠を結ぶ絃―ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193(2023) [第72回「尾高賞」受賞作品] ヴィトマン/死の舞踏(2022) [日本初演]

ヴィトマン/楽園へ(迷宮 VI)―トランペットとオーケストラのための(2021) [日本初演]

料金(税込):一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売中

主催:NHK/NHK交響楽団 共催:(公財)東京オペラシティ文化財団 助成:芸術文化振興基金/(公財)三菱UFJ信託芸術文化財団/(公財)アフィニス文化財団





6/29回4:00pm N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮:平石章人 クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者) ナビゲーター:大林奈津子

ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー | 前奏曲(抜粋)(6月Aプログラム)

ツェムリンスキー/交響詩「人魚姫」―第2楽章(抜粋)(12月Aプログラム)

グリーグ/組曲「ホルベアの時代から」—「ガヴォット」(10月Bプログラム)

シベリウス/交響詩「4つの伝説 |---「レンミンケイネンの帰郷 | (9月Cプログラム)

モーツァルト/クラリネット協奏曲―第2楽章(4月Bプログラム)

外山雄三/管弦楽のためのディヴェルティメント―第3楽章(4月Cプログラム)

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)―「王女たちの踊り」(1月Cプログラム)

ホルスト/組曲「惑星 |---「木星 | (11月Aプログラム)

終演後のお楽しみ! \| 響メンバーのトークコーナー

料金(税込):一般2,000円/定期会員1,700円/ユースチケット(29歳以下)1,000円/ウェルカム・ペアチケット(2枚1組)3,200円

チケット発売中

主催:NHK/NHK交響楽団

7/18 至 7:00pm N響「夏」2025

NHK ホール

指揮:ダーヴィト・アフカム ピアノ:マルティン・ヘルムヒェン

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円 ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円 ※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売中

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:岩谷産業株式会社

8/3回3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHK ホール

指揮:松本宗利音 ピアノ:阪田知樹* ナビゲーター:一龍斎貞鏡

[オーケストラとゆく ちょっとふしぎな夏の冒険]
バーンスタイン/歌劇「キャンディード」序曲
グリーグ/劇音楽「ペール・ギュント」〈抜粋・講談つき〉
ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*
メンデルスゾーン/交響曲 第3番 イ短調 作品56 「スコットランド」 一第2楽章 チャイコフスキー/イタリア奇想曲 作品45 〈抜粋〉
ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」 「ジークフリートのラインの旅」

料金(税込): 一般 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,000円 C席1,500円 ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円 小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円 ※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売中

主催:NHK/NHK交響楽団協力:株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院/株式会社ポケモン

10/29 M 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2025

サントリーホール

指揮:大友直人 チェロ:鳥羽咲音

ドヴォルザーク/チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 シベリウス/交響曲 第2番 二長調 作品43

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円 ユースチケット(29歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円 %定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日: N響定期会員先行 | 6月23日(月)10:00am 一般 | 6月27日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 特別協賛:株式会社明電舎

WEBチケットN響

https://nhkso.pia.jp



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm 定休日: 土・日・祝日 ●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

7/5±5:00pm

厚木市文化会館リニューアルオープン・厚木市制 70周年記念事業

NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館

指揮:川瀬賢太郎 バンドネオン:三浦一馬

マルケス/ダンソン 第2番

ピアソラ/バンドネオン協奏曲「アコンカグアー

ヒナステラ/バレエ組曲 「エスタンシア | 作品8a

バーンスタイン/「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス

主催: (公財)厚木市文化振興財団 お問合せ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL(046)224-9999

7/10**★** 7:00pm

東京国際指揮者コンクール

入賞デビューコンサート 指揮コン×N響

サントリーホール

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)(指揮:吉﨑理乃)

ガーシュウィン/パリのアメリカ人(指揮:ライリー・コート・ウッド)

ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68(指揮:コルニリオス・ミハイリディス)

主催:MIN-ON お問合せ:MIN-ONインフォメーションセンター TEL(03)3226-9999

7/13回3:30pm N響ゴールデン・クラシック 2025 夏編

府中の森芸術劇場 どりーむホール

指揮:熊倉 優 ピアノ:若林 顕

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:MIYAZAWA & Co. お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

7/20 0 6:00pm 第27回 NHK交響楽団松山定期演奏会

愛媛県県民文化会館 メインホール

指揮:ダーヴィト・アフカム ピアノ:マルティン・ヘルムヒェン

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催:NHK松山放送局/愛媛新聞社/NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

7/21 月规 4:30pm NHK交響楽団演奏会 広島公演

上野学園ホール〈広島県立文化芸術ホール〉

出演者・曲目は7月20日と同じ

主催:NHK広島放送局/NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

7/27 3:00pm NHK交響楽団 姫路特別演奏会

アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター) 大ホール

指揮:ワレリー・ポリャンスキー ピアノ:エヴァ・ゲヴォルギヤン

チャイコフスキー/ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 作品23

チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:(公財)姫路市文化国際交流財団 お問合せ:姫路市文化国際交流財団制作チーム TEL(079)297-1141

7/28 月6:30pm オーケストラ・キャラバン NHK 交響楽団演奏会 三原公演

三原市芸術文化センター ポポロ

出演者・曲目は7月27日と同じ

主催:(公社)日本オーケストラ連盟/NHK交響楽団





文 チンテ 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/4月3:00pm フェスタ サマーミューザ KAWASAKI 2025 NHK交響楽団

ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮:松本宗利音 ピアノ:阪田知樹*

チャイコフスキー / イタリア 奇想曲 作品45

ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*

メンデルスゾーン / 交響曲 第3番 イ短調 作品56 スコットランド」

主催:川崎市/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問合せ:ミューザ川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

8/22 7:00pm NHK交響楽団演奏会 仙台公演

仙台銀行ホール イズミティ21 大ホール

指揮:トン・コープマン ヴァイオリン:佐藤俊介

モーツァルト/セレナードニ長調 K. 239 [セレナータ・ノットゥルナ]

モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K. 218

モーツァルト/交響曲 第41番 ハ長調 K. 551 「ジュピター |

主催:NHK仙台放送局/NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/23 = 3:00pm NHK交響楽団演奏会 盛岡公演

盛岡市民文化ホール 大ホール

出演者・曲目は8月22日と同じ

主催:NHK盛岡放送局/NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/24 3:00pm NHK交響楽団演奏会 弘前公演

弘前市民会館 大ホール

出演者・曲目は8月22日と同じ

主催: NHK 青森放送局 / NHK 交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

8/30±4:00pm

真夏の音楽会vol.8 大谷康子と楽しむ音楽の旅

世界の名画を訪ねて

練馬区立練馬文化センター 大ホール

指揮:飯森範親 ヴァイオリン:大谷康子

J. シュトラウス2世/喜歌劇「こうもり」序曲

シュトルツ(萩森英明編)/映画「モナ・リザの失踪 | から

レスピーギ/「ボッティチェリの3枚の絵」―「ヴィーナスの誕生」

ヴィヴァルディ/4つのヴァイオリンのための協奏曲 ロ短調 作品3-10―第1楽章

ドビュッシー/交響詩 [海 | 一第1楽章

アダン/バレエ音楽「ジゼル | 序奏

ブロッホ / バール・シェム

ラター(萩森英明編)/ゲール人の祝福

ムソルグスキー(ラヴェル編)/組曲「展覧会の絵」--「バーバ・ヤーガの小屋」「キエフの大きな門」

主催:練馬区 お問合せ:練馬区文化・生涯学習課文化振興係 TEL(03)5984-1284

9/2处7:00pm Storia IV

サントリーホール

指揮:広上淳一 ヴァイオリン:服部百音

プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19

ストラヴィンスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調

ブラームス/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

9/6 3:00pm NHK交響楽団 角田鋼亮(指揮) 中野りな(ヴァイオリン)

埼玉会館 大ホール

指揮:角田鋼亮 ヴァイオリン:中野りな

モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲

チャイコフスキー/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67 [運命]

主催: (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 お問合せ: SAF チケットセンター TEL (0570) 064-939

9/7回3:00pm NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

出演者・曲目は9月6日と同じ

主催:(公財)郡山市文化・学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)お問合せ:けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL(024)934-2288

9/21 回 3:00 pm | 第27回 NHK 交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)・文化ホール

指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス

武満 徹/3つの映画音楽

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」

主催:(公財)足利市みどりと文化スポーツ財団 お問合せ:あしかがフラワーバークプラザ(足利市民ブラザ) TEL(0284)72-8511

10/3 全 7:00pm NHK音楽祭2025

NHKホール

指揮:エヴァ・オリカイネン トランペット:児玉隼人 ピアノ:ソフィア・リュウ

ラヴェル/ラ・ヴァルス

トマジ/トランペット協奏曲

サン・サーンス/ピアノ協奏曲 第2番ト短調 作品22

R. シュトラウス/歌劇「ばらの騎士 |組曲

主催:NHK/NHKプロモーション お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

10/4 ± 4:00pm NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

出演者・曲目は10月3日と同じ

主催:NHK大阪放送局/NHK交響楽団 お問合せ:NHK大阪ホールNHKイベントガイド TEL(06)6947-5000

10/13月祝 3:00pm

NHK交響楽団ベストクラシックス

沼尻竜典×岡本誠司(Vn)×NHK交響楽団

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:沼尻竜典 ヴァイオリン:岡本誠司

ロッシー二/歌劇「ウィリアム・テル」序曲

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26

ドヴォルザーク/交響曲 第8番ト長調 作品88

主催: 葛飾区文化施設指定管理者 お問合せ: かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

11/3 月祝 3:00pm NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

パルテノン多摩 大ホール

指揮:広上淳一 ピアノ:小林海都

伊福部 昭/SF交響ファンタジー 第1番

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K. 467

ラヴェル/ボレロ

ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第1番、第2番

主催:パルテノン多摩共同事業体 お問合せ:パルテノン多摩 TEL(042)376-8181

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

7/6 回 3:30pm

出演者・曲目は7月5日と同じ

11/2回3:30pm

出演者・曲目は11月3日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

特別支援•特別協力•賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社 三菱地所株式会社 株式会社 みずほ銀行 公益財団法人 渋谷育英会 東日本旅客鉄道株式会社 東日本電信電話株式会社 東京海上ホールディングス株式会社 株式会社ポケモン 代表取締役社長 | 間島 覧 執行役社長 | 中島 篤 頭取 | 加藤勝彦 理事長 | 小丸成洋 代表取締役社長 | 喜勢陽一 代表取締役社長 | 澁谷直樹 取締役社長 / ループCEO | 小宮 暁 代表取締役社長 / 石原恒和

特別協力

BMWジャパン 全日本空輸株式会社 ヤマハ株式会社 ぴあ株式会社 代表取締役社長 | 長谷川正敏 代表取締役社長 | 井上慎一 代表執行役社長 | 山浦 敦 代表取締役社長 | 矢内 庸

賛助会員

- 常陸宮
- ・(株)アートレイ 代表取締役 | 小森活美
- ・(株)アイシン 取締役社長 | 吉田守孝
- (株)アインホールディングス 代表取締役社長 | 大谷喜一
- · 葵設備工事(株) 代表取締役社長 | 安藤正明
- ・(株)あ佳音 代表取締役社長 | 遠山信之
- AXLBIT(株)
 代表取締役 | 長谷川章博
- アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO | 勝木敦志
- ·(株)朝日工業社 代表取締役社長 | 高須康有
- ・朝日信用金庫 理事長 | 伊藤康博

- ・有限責任 あずさ監査法人 理事長 | 山田裕行
- アットホーム(株)代表取締役社長 | 鶴森康史
- ・ イーソリューションズ(株)代表取締役社長 | 佐々木経世
- ・EY新日本有限責任監査法人 理事長 | 片倉正美
- ・(株)井口一世 代表取締役 | 井口一世
- ・池上通信機(株) 代表取締役社長 | 清森洋祐
- (一財)ITOH代表理事 | 伊東忠俊
- ・井村屋グループ(株) 取締役社長 | 大西安樹
- ・ 侑)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 | 山下智之

- (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 | 鈴木幸一
- 内 聖美
- 内山骨史
- ・SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 | 吉岡秀二
- SCSK(株) 代表取締役執行役員社長 | 當麻隆昭
- ・(株) NHK アート 代表取締役社長 | 平田恭佐
- ・NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 | 手島一宏
- ・(株) NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 | 荒木美弥子
- ・(株) NHK エンタープライズ 代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(学)NHK学園 理事長 | 等々力 健

- (株) NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株) NHK出版 代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株) NHK テクノロジーズ 代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株) NHK ビジネスクリエイト 代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株) NHK プロモーション 代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ 代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株) NTTファシリティーズ 代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ ENEOS ホールディングス(株) 代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・ 荏原冷熱システム(株) 代表取締役 | 加藤恭一
- ・MNインターファッション(株) 代表取締役社長 | 吉本一心
- (株)エレトク 代表取締役 | 間部惠造
- ・大崎電気工業(株) 代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会 代表取締役社長 | 大塚裕司
- 大塚ホールディングス(株)代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組 代表取締役社長 | 佐藤俊美
- オールニッポンへリコプター(株) 代表取締役社長 | 寺田 博
- 岡崎悦子
- 岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株) 取締役社長 | 鈴木 滋
- 隂山建設(株) 代表取締役 | 隂山正弘
- 鹿島建設(株) 代表取締役社長 | 天野裕正
- ·(株)加藤電気工業所 代表取締役 | 加藤浩章
- ·(株)金子製作所 代表取締役 | 金子晴房
- カルチュア・エンタテインメント(株)代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄

- · (株)関電工 取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぽ生命保険 取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- キッコーマン(株)代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社 代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス 代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館 代表取締役専務 | 梅野 修
- ·(一社)共同通信社 社長 | 水谷 亨
- キリンホールディングス(株)代表取締役会長 CEO | 磯崎功典
- · (学)国立音楽大学 理事長 | 重盛次正
- · 京王電鉄(株) 代表取締役社長 社長執行役員 都村智史
- · 京成電鉄(株) 代表取締役社長 社長執行役員 小林敏也
- KDDI(株)
 代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・ (医)社団 恒仁会 理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス 代表執行役 | 服部正太
- (株)コーポレ仆ディレクション 代表取締役 | 小川達大
- コグニティブリサーチラボ(株) 代表取締役 | 苫米地英人
- 小林弘佑
- ·佐川印刷(株) 代表取締役会長 | 木下宗昭
- 佐藤弘康
- ・サフラン電機(株) 代表取締役 | 藤﨑貴之
- ・(株)サンセイ 代表取締役 | 冨田佳佑
- サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 | 鳥井信宏
- (株)ジェイ・ウィル・コーポレーション 代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株) 代表取締役社長 | 岩木陽一

- ・(株)シグマクシス・ホールディングス 代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ 代表取締役社長 | 二瓶純一
- ·(株)集英社 代表取締役社長 | 廣野眞一
- ·(株)小学館 代表取締役社長 | 相賀信宏
- ·(株)商工組合中央金庫 代表取締役社長 | 関根正裕
- · 庄司勇次朗·惠子
- ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ 代表取締役 | 白川亜弥
- · (有)新赤坂健康管理協会 代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株) 代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- 新角卓也
- ·新菱冷熱工業(株) 代表取締役社長 | 加賀美 猛
- (株)スカパーJSATホールディングス 代表取締役社長 | 米倉英一
- ·(株)菅原 代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- スズキ(株)代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株) 代表取締役 社長執行役員 CEO 上野真吾
- · 住友電気工業(株) 社長 | 井上 治
- セイコーグループ(株)代表取締役会長兼グループ CEO 兼グループ CCO | 服部真二
- ・聖徳大学 理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道㈱ 代表取締役社長 | 小川周一郎
- ·清和綜合建物(株) 代表取締役社長 | 大串桂一郎
- · 関彰商事(株) 代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン 代表取締役社長 | 澤本 泉
- (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント 代表取締役社長グループCEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株) 取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株) 代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- •第一生命保険(株) 代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株) 代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株) 代表取締役社長兼グループCEO 鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株) 代表取締役社長 | 小島和人
- (株)ダク 代表取締役 | 福田浩二
- ·(株)竹中工務店 取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ·田中貴金属工業(株) 代表取締役社長執行役員 田中浩一朗
- ・田原 昇
- (株)ダブルスタンダード 代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株) 代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株) 代表取締役社長 | 三宅 潔
- •中外製薬(株) 代表取締役社長 | 奥田 修
- ·(株)電通 代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ 代表取締役 | 中村聡武
- 東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
- 代表取締役会長|石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株) 代表取締役社長 | 丹羽俊介
- 東急(株) 取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー 代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村 代表取締役 | 嶋田 創
- ·(株)東京交通会館 取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株) 代表取締役 | 堀川利通

- ・東武鉄道(株) 取締役社長 | 都筑 豊
- ·桐朋学園大学 学長 | 辰巳明子
- ·(株)東北新社 代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株) 代表取締役 | 西川八重子
- ・(一財)凸版印刷三幸会 代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディン グス(株) 代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ 代表 | 渡辺蔵人
- ・ 日興アセットマネジメント(株)
- ・日鉄興和不動産(株) 代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株) 取締役代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト 代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株) 取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行 代表取締役社長 | 土屋正裕
- · (株)日本国際放送 代表取締役社長 | 髙尾 潤
- ・日本たばこ産業(株) 代表取締役社長 | 寺畠正道
- ・日本通運(株) 代表取締役社長 | 竹添進二郎
- 日本電気(株) 取締役 代表執行役社長兼 CEO 森田隆之
- 日本 BCP(株) 代表取締役社長 | 角谷育則
- ·(-財)日本放送協会共済会 理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株) 代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株) 取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也

- ・(株)ニトリホールディングス 代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ 代表取締役社長 | 柴尾雅春
- · 野田浩一
- ・野村ホールディングス(株) 代表執行役社長 | 奥田健太郎
- パナソニック ホールディングス(株) 代表取締役 社長執行役員 グループ CEO 楠 見雄規
- · (株)原田武夫国際戦略情報研究所 代表取締役 | 原田武夫
- (有)パルフェ代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ ぴあ(株)代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)ビー・ジー・エム 代表取締役 | 山川慎一郎
- ・(株)フォトロン 代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株) 代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株) 代表取締役社長 | 櫛田龍治
- ・古川宣一
- ペプチドリーム(株)代表取締役社長CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス 代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム 代表取締役社長 | 角 英夫
- · 公財放送文化基金 理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)代表取締役 | 水野雅義
- ポラリス・キャピタル・グループ(株) 代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工繊(株) 代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- 町田優子
- ・丸紅(株) 代表取締役社長 | 大本晶之
- ・溝江建設(株) 代表取締役 | 溝江 弘

- · 三井住友海上火災保険(株) 代表取締役 | 舩曳真一郎
- ·(株)三井住友銀行 頭取 | 福留朗裕
- · 三井住友信託銀行(株) 取締役社長 | 大山一也
- ·三菱商事(株) 代表取締役社長 | 中西勝也
- ・(株)緑山スタジオ・シティ 代表取締役社長 | 近藤明人
- ・三橋産業(株) 代表取締役会長 | 三橋洋之
- 三橋洋之
- 三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス 代表取締役社長 | 是枝周樹
- · 学武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学 理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治 代表取締役社長 | 松田克也

- · (株)明電舎 代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株) 代表執行役会長社長最高経営責任者 ディルク・オステイン
- ・(株)目の眼 社主 | 櫻井 恵
- ・森ビル(株) 代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株) 代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株) 代表取締役 | 山田裕幸
- (株)ヤマハミュージックジャパン 代表取締役社長 | 松岡祐治
- ユニオンツール(株)代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- · (株)読売広告社 代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行 代表取締役社長 | 貞広貴志

- リコージャパン(株)
 代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
- ・料亭 三長 代表 | 髙橋千善
- ・(株)リンレイ 代表取締役社長 | 鈴木信也
- (有)ルナ・エンタープライズ 代表取締役 | 白鳥正美
- ・ローム(株) 代表取締役社長 社長執行役員 東 克己
- ・YKアクロス(株) 代表取締役社長 | 田渕浩記
- ・YCC(株) 代表取締役 | 中山武之

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々に ご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大き な柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

- 1. 会費: 一口50万円(年間)
- 2. 期間: 入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
- 入会の特典: 「フィルハーモニー」、「年間パンフレット」、「「第9」演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ 公益財団法人 NHK交響楽団[寄付担当係]

TEL: 03-5793-8120

曲目解説執筆者

池上健一郎(いけがみ けんいちろう)

京都市立芸術大学音楽学部教授、ヴュルツブルク大学でハイドンと古典派時代の音楽に関する研究により博士号取得。専門は18~19世紀のドイツ語圏の音楽。著書に『ハイドン』(作曲家・人と作品シリーズ)、訳書に『アントン・ブルックナー』(フェーリクス・ディアガーデン著)、論文に「『二重の存在』としてのブルックナー――《交響曲第9番》第3楽章(アダージョ)における自立性と標題性をめぐって」など。

中村伸子(なかむら のぶこ)

宮城県仙台市出身。東京藝術大学楽理科を経て同大学院音楽研究科(音楽学)修士課程修了。現在、ウィーン国立音楽大学エクシールアルテ・センターの上級研究員としてエーリヒ・ウォルフガング・コルンゴルトの書簡全集を編集するとともに、同オペラ《死の都》の一次資料に関して博士論文を執筆中。各種音楽媒体への寄稿のほか、楽曲解説、演奏会企画、字墓制作など多数。

沼野雄司(ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士(音楽学)。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。著書に『トーキョー・シンコペーション――音楽表現の現在』『音楽学への招待』『現代音楽史――闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ――孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ――前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

(五十音順 敬称略)

N響の出演番組

定期公演や特別公演の模様が放送されるほか、 大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。 NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか) **Eテレ** 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック FM 7:35~9:15pm

※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会 EM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます) **Eテレ** 木曜9:00~9:30pm 月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」(テレビ)や「らじる★らじる」(ラジオ)で1週間何度でもご視聴いただけます。 出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください!

インターネットアンケートにご協力ください

- ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
- ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の QRコードを読み取る。 またはURLを入力 https://www.nhkso.or.jp/ enquete.html



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、 「送信」を押して完了!

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな	年齢	歳
お名前	TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Avumu Iizuka O Kvoko Une
- Yuki Oshika
- O Rvota Kuratomi
- Ko Goto
 - Tamaki Kobayashi
 - Toshihiro Takai Taiga Toio
 - Yuki Naoi
 - Yumiko Nakamura Takao Furihata
 - Hiroyuki Matsuda
- O Haruhiko Mimata Nana Miyagawa
- O Tsutomu Yamagishi O Koichi Yokomizo

2nd Violins

- O Rintaro Omiya
- Masahiro Morita Toshiyuki Kimata Maiko Saito
- O Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- O Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano Yoko Funaki
- Kenii Matano
- Ryuto Murao Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- O Masamichi Yokoshima Toshiro Yokovama Yuka Yoneda
- * Reika Shimizu
- * Yui Yuhara

Violas

- Rvo Sasaki
- O Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura Satoshi Ono Shigetaka Obata
- * Eri Kuribayashi
- ☐ Gentaro Sakaguchi Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa O Hironori Nakamura Naovuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa O Ryo Muramatsu

Cellos

- Rei Tsujimoto
- O Ryoichi Fujimori Hirova Ichi Yukinori Kobatake
- O Miho Naka O Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura Koichi Fujimori Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai Yusuke Yabe
- O Shunsuke Yamanouchi Masako Watanabe

Contrabasses

- O Shu Yoshida
- O Masanori Ichikawa Eiji Inagawa
- O Jun Okamoto Takashi Konno
- O Shinji Nishiyama Tatsuro Honma Yoko Yanai

Flutes

Oboes

- Masavuki Kai
- Hiroaki Kanda Maho Kajikawa

Junji Nakamura

- O Yumi Yoshimura Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike * Shuhei Nakamura Hitoshi Wakui

Clarinets

- © Kei Ito
- O Kenii Matsumoto Takashi Yamane

Bassoons

- O Hironori Ugajin
- © Kazusa Mizutani
- * Shusuke Ouchi Yuki Sato Itaru Morita

Horns

O Hitoshi Imai Naoki Ishivama Yasushi Katsumata Hiroshi Kigawa Yudai Shoii Kazuko Nomiyama

Trumpets

- O Kazuaki Kikumoto
- O Tomoyuki Hasegawa Tomoki Ando Kotaro Fuiii Eiii Yamamoto

Trombones

- O Hikaru Koga
- O Mikio Nitta Ko Ikegami Hirovuki Kurogane

Tuha

Yukihiro Ikeda

Timpani

- O Shoichi Kubo
- ☆ Toru Uematsu

Percussion

- Tatsuva Ishikawa Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki Hideyo Kimura

(Principal, ☆ Acting Principal, O Vice Principal, Acting Vice Principal, # Inspector, *Intern)

PROGRAM



Concert No. 2039

NHK Hall

June

7(Sat) 6:00pm

8(Sun) 2:00pm

<u>Vladimir Fedoseyev</u>

piano Yulianna Avdeeva*

concertmaster Sunao Goko

Nikolai Rimsky-Korsakov May Night, opera—Overture [8']

Sergei Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini, Op. 43* [24']

- intermission (20 minutes) -

Peter Ilich Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, Pathétique [50']

- I Adagio-Allegro non troppo
- II Allegro con grazia
- III Allegro molto vivace
- IV Finale: Adagio lamentoso
- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Vladimir Fedoseyev, conductor



Born in Leningrad (present day St. Petersburg) in 1932, Vladimir Fedoseyev studied at the Gnessin Russian Academy of Music and the Moscow State Tchaikovsky Conservatory.

In 1974, he assumed the positions of Artistic Director and Chief Conductor of the Moscow Radio Symphony Orchestra (now the Tchaikovsky Symphony Orchestra), with which he visited Japan in the following year for the

first time. He has led this orchestra, one of the leading orchestras of Russia, for half a century (as Artistic Director, but stepped down from Chief Conductor in February 2025). He also worked with the Wiener Symphoniker from 1997 to 2004 as its Principal Conductor.

He also enjoys a close relationship with Japanese orchestras, and assumed the position of Principal Guest Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 1996, and was presented the title of Honorary Conductor from it in 2015.

In May 2013, at the age of eighty, he conducted the NHK Symphony Orchestra for the

first time, and since then, he has frequently returned to the podium, in April and November, 2015, February and May, 2017, July and December, 2018, and in March 2023, not only for the orchestra's subscription concerts, but also in its Orchard Hall Series as well as the 6th Subscription Concert in Iwaki and the orchestra's west Japan tour.

The June subscription concerts he will conduct takes place in the year to mark the 50th anniversary of his first visit to Japan, and with the program of Rimsky-Korsakov, Rakhmaninov and Tchaikovsky, I am sure he will give his audience a taste of the unique charm of Russian music with powerful yet some melancholic shade to its melody.

[Vladimir Fedoseyev by Kotaro Yamazaki, music critic]

Yulianna Avdeeva, piano



Born in 1985 in Moscow, Yulianna Avdeeva learned at the Moscow Gnessin Special School (college) of Music, famous for its early musical education, and from 2003, under Konstantin Scherbakov at the Zurich University of the Arts.

She came to attention after winning the second prize (no 1st place) in the piano section of the Geneva International Music Competition

in 2006, and rose to fame in 2010 by winning the International Chopin Piano Competition in Warsaw. Since then, at the forefront as one of the world's most renowned pianists, she makes her successful appearances in recitals, concerto performances with famed orchestras worldwide, and also in music festivals including the Salzburg and Lucerne. She is also active as a fortepianist. Her performance of focusing on the whole work while delicately polishing the expressions of the details, and incorporating deep emotions, has been highly evaluated.

This is her first appearance with the NHK Symphony Orchestra since 2014. She will perform Rakhmaninov's *Rhapsody on a Theme of Paganini*. She will display both the romantic emotion and vivid playing technique of this work in an accurate performance unique to her.

[Yulianna Avdeeva by Motoyuki Teranishi, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Nikolai Rimsky-Korsakov (1844–1908)

May Night, opera—Overture

Rimsky-Korsakov is known as a member of The Mighty Handful a.k.a The Five, along with Mussorgsky and others. Formed around 1860, this Saint-Petersburg-based circle of young "Sunday composers" shared an aspiration to develop a nationalist school of Russian classical music inspired by folk elements. One of their stances was being anti-academic: Rimsky-Korsakov at the naval service, however, took a step in the academic world in 1871 becoming a professor of the Saint Petersburg Conservatory where rehearsing the student orchestra

improved his already-acute scoring sense. In parallel, his duties as the Inspector of Naval Bands from 1873 deepened his knowledge of wind instruments. His peerlessly masterful orchestration skill will be fully displayed in his later works including *Sheherazade* (1888).

Composed in 1878–1879, *May Night* is the second of Rimsky-Korsakov's fifteen operas. The libretto is after the tale *May Night*, or the Drowned Maiden by the Ukrainian novelist Nikolai Gogol. Set in a Ukrainian village during the Whitsunday (Pentecost) week, the opera features the Village Mayor, his son Levko and Levko's girlfriend Hanna, interweaving fantastical scenes with rusalki (rusalka is a water nymph in Slavic folklore).

Utilizing some existent Ukrainian folksongs, Rimsky-Korsakov's music vividly describes both the rural and supernatural worlds. The eventful overture has, right after its calm introduction, the horn solo crooning the lyrical aria *Sleep my beauty, sleep sweetly!* (Act III) that Levko sings by a magical moonlit lake.

Sergei Rakhmaninov (1873-1943)

Rhapsody on a Theme of Paganini, Op. 43

"What a violin! (...) Heavens! What sufferings, what misery, what tortures in those four strings!" exclaimed the twenty-year-old Franz Liszt (1811–1886) in 1832, after attending a concert of the Italian violinist-composer Nicoló Paganini (1782–1840) for the first time. Paganini's technical prowess was such that, a rumor widespread that he had traded his soul with Devil for the magical talent. Time passed, and the Russian Romantic composer Rakhmaninov enjoyed an extraordinary virtuosity comparable to Paganini, as a pianist. He wrote the *Rhapsody on a Theme of Paganini* for piano and orchestra in 1934 for himself to play, as one of the few works he created after he left his homeland following the 1917 Bolshevik Revolution.

This piece is composed of a theme and twenty-four variations performed continuously without a pause. Although entitled "Rhapsody" (an episodic, single-movement form), it is designed overall in the traditional concerto format with a rapid movement (1st variation to 10th), a slow movement (11th to 18th) and a rapid final movement (19th to 24th). After a short introduction, Rakhmaninov unconventionally inserts the 1st variation before violins officially present the theme in 2/4 in A minor, a brisk tune from Paganini's Caprice No. 24 for violin. Pivotal is the sluggish 7th variation in 2/4 in A minor, where the demonic Dies Irae (Day of Wrath) melody from the Catholic Mass for the Dead is first stated by the piano. The very first triple-meter section is the fantastical 11th variation in 3/4 in A minor where the pianist gives a cadenzalike monologue against a background of string tremolos (tremulous effect) and harp glissandos (glides). The 18th variation in Db major in 3/4 gives the most romantic, mellifluous melody the composer ever wrote probably, inverting the theme. The piano ensures the theme's return at the 23rd variation before giving a brief cadenza-like passage without orchestra. The torrential 24th variation resounds the Dies Irae melody in the brass while the piano demonstrates its supreme virtuosity. Rakhmaninov's last concerto evaporates like a mischievous wink with a fleeting coda.

Symphony No. 6 B Minor Op. 74, Pathétique

The Russian Romantic composer Tchaikovsky studied at the Saint Petersburg Conservatory before moving to Moscow in 1866. In his early creative years, he was influenced by the above-mentioned nationalist circle "The Five," especially its leader Mily Balakirev (1837–1910) whom he met in 1868. Tchaikovsky's Symphony No. 2 (1872) quoting some Ukrainian folksongs was, for example, warmly welcomed by The Five.

From the mid-1870s, Tchaikovsky's approach would be diverted from pronounced folkloric colors to a style deeply rooted in the Western, European tradition which was marked by solid classical forms and more subjective expressions, as represented by the Piano Concerto No. 1 (1875), *Swan Lake* (1876) and Symphony No. 4 (1878). His creative power then withered for some time, but eventually recovered its previous vigor producing *The Sleeping Beauty* (1889), *The Nutcracker* (1892) and the Symphony No. 6 *Pathétique* (1893) to name a few.

Tchaikovsky's stylistic evolution was, however, brought to a halt by his abrupt death at age 53 in October 1893, merely nine days after he conducted the premiere of the Symphony No. 6 in Saint Petersburg. The cause of his passing is still a mystery, but the commonly accepted theory says he was affected with cholera by drinking unboiled water (some say he committed suicide after some private trouble). The Symphony No. 6, composed in six months in 1893, is well-known for its novelty in form which foretells the composer's upcoming further adventure in the genre. Although hindered by his demise, this path will be developed by Gustav Mahler in particular.

The French nickname of No. 6, Pathétique, is said to be given by Tchaikovsky himself. Coincidentally or not, the symphony starts with a melody line (E-F#-G-F#, on a bassoon) identical to the one (C-D-Eb-D) opening Beethoven's Piano Sonata No. 8 Pathétique. Moreover, this melody will recur throughout the symphony as a cyclic motif. The first movement's lugubrious introduction is succeeded by an extended sonata section with two contrastive subjects: the dark first theme given in B minor by violas and the radiant, tuneful second theme introduced in D major by violins and cellos. The graceful second movement is a waltz, a rarity in the symphonic literature, and even rarer is its time 5/4 (2/4+3/4). The third movement alternates a carefree scherzo section in 12/8 with a brassy march section in 4/4. These inner movements, a major-key respite, are followed by the return of the "Pathétique": the last movement, headed "lamentoso (mournfully)," immediately announces the plaintive falling theme played by the first and second violin sections, trading every note, back and forth. After the heartrending music reaches the zenith, a calm tam-tam strike leads to the slow coda where the symphony dies away in B minor, the complete opposite of conventional triumphant conclusions of symphonies following Beethoven's spirit of "per aspera ad astra (through hardships to the stars)."

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No. 2040

Suntory Hall

June 12(Thu) 7:00pm 13(Fri) 7:00pm

conductor	_ Juanjo Mena	
flute	Karl-Heinz Schütz	
concertmaster	Sunao Goko	

Jacques Ibert Flute Concerto [19]

- l Allegro
- II Andante
- III Allegro scherzando
- intermission (20 minutes) -

Anton Bruckner Symphony No. 6 A Major [60]

- I Maestoso
- II Adagio: Sehr feierlich
- III Scherzo: Ruhig bewegt (etwas gemessen)
 - Trio: Langsam
- IV Finale: Bewegt, doch nicht zu schnell

Artist Profiles

Juanjo Mena, conductor



Juanjo Mena is originally from the Basque Country of Spain, where he still lives. The Basque Country has been known as a region of particular ethnicity and culture, but also as the homeland of Ravel (though he was from French side of the region). Partly due to such background, his repertoire was focused on composers of Spain, France and Latin America, including Ravel, however with the development of his career, he expanded his

repertoire, and in 2016, he was awarded the Spanish National Music Award, thus advancing as one of the leading maestros to represent Spain. After serving as Artistic Director of Bilbao Symphony Orchestra, Spain (1999–2008), he was appointed Chief Conductor of the BBC Philharmonic of Manchester in 2011 (until 2018), the position of which helped him make his name known internationally, and solidified his reputation not only for his specialism in Spanish music, but also for his symphonic repertoire, including Schubert and Bruckner. He has been repeatedly invited to the world's famed orchestras for guest-conducting, including the Berliner Philharmoniker.

⁻ All performance durations are approximate.

His first collaboration with the NHK Symphony Orchestra was in 2017, then he returned in 2021, on both occasions, the programs being of Latin and French repertoire. For the coming concert, he has picked Ibert combined with Bruckner, and will exhibit his true value by conducting the expansive Bruckner Symphony No. 6 as he once studied under Celibidache. As he wrapped up the work unstrainedly yet neatly in the recording, we look forward to how the NHK Symphony Orchestra, an orchestra with a long-established tradition for German and Austrian repertoire, will perform the work under his baton.

[Juanjo Mena by Mitsunori Eto, music critic]

Karl-Heinz Schütz, flute



Innsbruck-born Karl-Heinz Schütz studied with Eva Amsler at the Vorarlberg State Conservatory in Austria, and then under Aurèle Nicolet, her tutor in Basel, Switzerland. Due to his intention to study in France, Schütz went under the tutelage of Philippe Bernold at the Conservatoire national supérieur musique et danse in Lyon. Thus, he expanded his musical horizons, and won the Carl Nielsen International

Competition in 1998, and the International Flute Competition Kraków in 1999. After working with the Stuttgarter Philharmoniker and the Wiener Symphoniker, he joined the Wiener Staatsoper Orchester in 2011, and since 2015, he has been the Principal Flutist of the Wiener Philharmoniker. He also served as soloist in the Wiener Philharmoniker's subscription concerts, playing Boulez's *Mémoriale* and Mozart's Flute Concerto No. 1. He is a member of the Ensemble Wien-Berlin and the Wiener-Ring-Ensemble.

He previously worked with the NHK Symphony Orchestra in 2015 and 2017, and on this occasion, he will play Ibert's Flute Concerto. Because he is not only specialized in German and Austrian music, but also French music, he is expected to deliver a highly attractive performance.

[Karl-Heinz Schütz by Haruo Yamada, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Jacques Ibert (1890-1962)

Flute Concerto

Born in Paris during the Belle Époque, Ibert developed his musical talent early on because of his pianist mother. From 1910, he studied under André Gedalge (Ravel's teacher) and others at the Paris Conservatoire. It was in Gedalge's private orchestration class that Ibert met Darius Milhaud (1892–1974) and Arthur Honegger (1892–1955): with Francis Poulenc (1899–1963), Milhaud and Honegger will soon form "Les Six (The Six)." While this avant-garde circle livened up Paris until the early 1920s, Ibert was mostly absent from the capital as he first served in

World War I as a nurse and a naval officer, and then won the Prix de Rome (a prestigious art scholarship) to stay in Rome from 1920 to 1923.

Ibert's renown increased right after this sojourn in Italy. His orchestral piece *Escales (Ports of Call)* (1922) was premiered in Paris in 1924 to be highly praised, before the immense success of his comic opera *Angélique* (1927) firmly established his fame in France and abroad. In chamber music, his *Three Short Pieces for Wind Ouintet* (1930) dates from this period.

Considered one of the most important and popular flute concertos alongside Mozart's No. 1 and No. 2, Ibert's Flute Concerto was composed in 1932–1933 and dedicated to the legendary French flutist Marcel Moyse (1889–1984). The dedicatee premiered it as the soloist in 1934 with the Orchestre de la Société des Concerts du Conservatoire conducted by Moyse's teacher Philippe Gaubert (1879–1941) who himself was a distinguished flutist.

Written for the instrument which opens Debussy's *Prélude à l'après-midi d'un faune* (1894) and Ravel's *Boléro* (1928), Ibert's Flute Concerto embodies the modern French music with its elegance, clarity, refinement and wittiness while showing his great knowledge of flute's techniques and expressions. The opening movement in sonata form has the imminent, snaky first theme and the contrastive, calm second theme. The slow second movement gives an exquisite duet by the flute solo and a violin towards the end. The high-spirited virtuosic finale in rondo form starts with the flute solo announcing the recurrent rondo theme with playful triplets.

Anton Bruckner (1824-1896)

Symphony No. 6 A Major

The late-Romantic composer Bruckner was a rare late bloomer in the classical music sphere crowded with infant phenomena. Born near Linz in Upper Austria, he made a living as a schoolteacher and church organist before moving to Vienna in 1868 in his mid-forties. It is only from that moment that most of his representative works including Symphonies No. 2 to No. 9 were penned. He had to long put up with cold treatment of his symphonies until the 1884 successful premiere of No. 7 spread his fame widely, merely twelve years before he passed away in Vienna at age 72.

Bruckner composed the Symphonies No. 2 to No. 5 between 1871 and 1876 before being deeply absorbed in revising works (he even wrote a completely new scherzo for No. 4 in 1878). His only chamber work from his Vienna period, the String Quintet in F major, was finished in July 1879. Penned from September 1879, No. 6 was for him a new symphony to tackle after the previous gap, and it is today considered an important work in the transition to the composer's final mature period. Incidentally, he set to work on *Te Deum*, a masterpiece of the sacred music repertoire nowadays, in May 1881 while he was completing No. 6.

As Bruckner didn't revise No. 6 after the completion, the situation is much simpler than his other symphonies' with many different versions and editions mostly owing to his frequent large and small modifications. The main reason for that is that No. 6 was partly premiered in 1883 in Vienna (only the second and third movements with large cuts) to be coldly received and then forgotten. It was three years after Bruckner's death that Gustav Mahler conducted the premiere of all movements in Vienna, but with large cuts and re-orchestration. The entire symphony was first heard in 1901 under the baton of Karl Pohlig in Stuttgart.

All the movements of No. 6 but the third (scherzo) are written as a three-theme sonata (instead of the traditional two-theme), Bruckner's favorite form. The opening movement begins with the majestic first theme on cellos and contrabasses accompanied by violins' rhythmical

ticks. This theme will return on trombones during the coda of the final movement to end the symphony brilliantly. The slow second movement has, although in F major, a touch of melancholy. The bright, mellifluous second theme first sung by violins and cellos makes a sharp contrast with the third theme in the style of a funeral march. The next movement in A minor is an ABA-form scherzo which is, unexpectedly, less boisterous than Bruckner's other symphonies'. The trio (central) section B lets horns play a fanfare-like melody before the woodwinds recall the opening theme of Bruckner's Symphony No. 5 (1878). Horn players will assume a vital role again at the fervent finale, powerfully stating the dotted first theme.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 66

PROGRAM

Concert No. 2041

NHK Hall

June

20(Fri) 7:00pm

21 (Sat) 2:00pm

conductor	Tarmo Peltokoski	
violin	Daniel Lozakovich	
concertmaster	Sunao Goko	

Erich Wolfgang Korngold Violin Concerto D Major Op. 35

[23']

- I Moderato nobile
- II Romance: Andante
- III Finale: Allegro assai vivace
- intermission (20 minutes) -

Gustav Mahler Symphony No. 1 D Major, *Titan*

[55]

- I Langsam. Schleppend. Wie ein Naturlaut
- II Kräftig bewegt, doch nicht zu schnell
- III Feierlich und gemessen, ohne zu schleppen
- IV Stürmisch bewegt
- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Tarmo Peltokoski, conductor



Can you imagine a conductor who was born in 2000? Moreover a young conductor who enjoys multiple positions with orchestras in many parts of the world. The Finnish conductor Tarmo Peltokoski studied under Jorma Panula at the age of fourteen, continued studies under Sakari Oramo at the Sibelius Academy, and then went under the tutelage of Hannu Lintu, Jukka-Pekka Saraste, and Esa-Pekka Salonen. He jumped

into the limelight in January 2022 when he was appointed as Principal Guest Conductor of The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen, then he continued to make headlines by being appointed as Music Director and Artistic Director of the Latvian National Symphony Orchestra in May the same year, Principal Guest Conductor of the Rotterdam Philharmonic Orchestra in September, then in December, Music Director of the Orchestre National du Capitole de Toulouse. It is virtually unprecedented for a conductor to have built such an international career

in such a short span of time. Furthermore, he will assume the position of Music Director of the Hong Kong Philharmonic Orchestra in the 2026–27 season. In the operatic field, he has built up his career by conducting Wagner's complete cycle of *Der Ring des Niebelungen* at the Eurajoki Bel Canto Festival.

As for recordings, he released a collection of three symphonies of Mozart with The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen from a prestigious label. In addition to his bold and innovative interpretations, he has aroused public attention by inserting his own piano improvisations between the works on the streaming.

He also actively works on Mahler, therefore, it is our pleasure to see what kind of sound he will draw out from the NHK Symphony Orchestra.

[Tarmo Peltokoski by Yoichi lio, music journalist]

Daniel Lozakovich, violin



Born in Stockholm in 2001, Daniel Lozakovich started to learn violin at the age of six, and two years after that, he had already made his concert debut playing a concerto with the Moscow Virtuosi conducted by Vladimir Spivakov. His concerts have always been received with high acclaim, and Le Figaro, the French newspaper, praised his concert as "Perfect mastery. An exceptional talent." Having been highly impressed

by his talent, virtuoso violinist, Ivry Gitlis, invited him to Tel Aviv to perform Bach's Concerto for Two Violins together in a festival.

Lozakovich studied at Universität für Musik und darstellende Kunst Wien with Professor Dora Schwarzberg and at the Hochschule für Musik Karlsruhe with Josef Rissin. He has already worked with world's major orchestras, and signed an exclusive contract with a long-established German record label in 2016, becoming the company's youngest artist under an exclusive contract. This is going to be his first appearance with the NHK Symphony Orchestra, performing Violin Concerto, a masterpiece by Korngold, a gifted composer who was popular in the United States. Lozakovich is expected to delight his audience with his beautiful sound and superb technique.

[Daniel Lozakovich by Takuya Katagiri, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Erich Wolfgang Korngold (1897-1957)

Violin Concerto D Major Op. 35

Korngold enjoyed exceedingly smooth sailing earlier in life as a composer, in contrast to his later years which took an unexpected turn. Born as a child of the renowned music critic

Julius Korngold in Brünn (today Brno), Austria-Hungary, he soon moved to Vienna. Gustav Mahler (Julius's friend) famously praised Korngold's cantata calling the nine-year-old composer a genius. His fame continued to grow in Europe until the rise of Hitler and the outbreak of World War II caused an unprecedented number of Jewish people to expatriate including Korngold. In the USA, his new base, he wrote scores for many American movies. His style, featuring Wagnerian leitmotif technique and Mahlerian/R. Straussian orchestration pioneered the Hollywood music we hear today.

Written in D major as with Beethoven's and Tchaikovsky's, Korngold's Violin Concerto (1945) dates from this American period and it was premiered after the war in 1947 in the USA. The Viennese premiere of the same year got harsh feedback which greatly disappointed Korngold: he was, for Europeans, an outdated late-Romantic who now served popular entertainment. This Concerto quoting four of Korngold's movie scores, however, reminds modern-day people's ears of how skillfully refined and appealing his film music was.

The first movement headed "nobile (nobly)" is in a flexible sonata form. At the start, the violin solo immediately states the broad principal theme based on Korngold's score for the movie *Another Down* (1937). The beginning (A–D–A–D–G*) of this theme will recur to unify the whole concerto. During the central A-major section, the violin solo sings another earpleasing melody from his music for the movie *Juarez* (1939). The slow second movement in G major, Romance, is in ABA form. The gentle main theme given by the violin solo is from the score for the movie *Anthony Adverse* (1936) which brought Korngold the Academy Award for Best Music. The virtuosic finale in rondo-sonata form in D major also recalls the trailblazer of the Hollywood music: the melodious second theme introduced in Bb major by the violin solo is from Korngold's score for the movie *The Prince and Pauper* (1937).

Gustav Mahler (1860-1911)

Symphony No. 1 D Major, Titan

Born in Kalischt, Bohemia (in the Austrian Empire) in 1860—merely two years earlier than Claude Debussy (1862–1918)—, Mahler is considered the last Romantic titan. His style is influenced by Wagner when it comes to rich harmonies, extreme chromaticism and long-stretched melodies. And all of Mahler's symphonic works are the epitome of late-Romanticism with their highly expressive and reflective nature, great length and colossal formation.

Completed in 1888 in his late twenties while he was the Leipzig Opera's second conductor in Germany, Mahler's Symphony No. 1 already shows several signature features that will be present in his later symphonies, the prime examples being the sublime and the profane sitting side by side, evocations of Nature, and pregnant citations of his own songs. Interestingly enough, No. 1 was conceived and first performed (in Budapest in 1889) as a symphonic poem with five movements in two parts. Then Mahler, a tenacious reviser, entitled the 1893 Hamburg version "*Titan*, a tone-poem in symphony form" after Jean Paul's four-volume novel *Titan* (1803) giving programmatic titles to the parts and movements which allude to Jean Paul, E. T. A. Hoffman and Dante. Although Mahler affirmed later these titles were afterthoughts and misleading, they continue to stimulate the imagination of the interpreters and listeners of this titanic work to a greater or lesser extent.

Commonly performed today as the Symphony No. 1 is the 1896 Berlin version. (Mahler would keep making minor revisions to it.) Distinctive differences between this version and the former ones are that it is in four movements (the bipartite concept was dropped and the slow

movement "Blumine" was cut out entirely), has no descriptive titles, and calls for a larger orchestra including at least seven horns and two sets of timpani.

The first movement is a sonata with a slow extended introduction which illustrates, according to the Hamburg version, "the awakening of Nature from the long sleep of winter." The woodwinds introduce a falling fourth-interval motif (soon turning to cuckoo calls) which will recur as a unifying element of the entire symphony. The second movement is a Ländler, a Bavarian and Austrian rural dance. The main theme is a quotation from Mahler's own song *Hans and Grete* that he originally wrote as *May Dance on the Green* for his first love in 1880.

Ironically cheery, the third movement is an early example of Mahler's obsession with the funeral march. Over timpani, the contrabass solo first sings the nursery round tune *Bruder Martin* (also known as *Bruder Jacob* or *Frère Jacques*) eerily in a minor key. Without a pause, a cymbal crash begins the finale that the Hamburg version called "Dall'inferno (From Hell), the suddenly erupting cry of a heart wounded to its depths." After the comeback of the symphony's opening introduction, Mahler lets seven hornists stand to play during the triumphant ending.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 66

The Subscription Concerts Program 2025–26

2025	Α	September 13 (Sat) 6:00pm	Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> Franz Schmidt Symphony No. 4 C Major	S 11,000 A 9,500 B 7,600	
00		14 (Sun) 2:00pm		C 6,000	C 2,800
		NHK Hall	Fabio Luisi, conductor Yefim Bronfman, piano	D 5,000 E 3,000	D 1,800 E 1,400
	В	Concert No. 2043	Takemitsu Three Film Scores	Ordinary	Youth
		September	Beethoven Violin Concerto D Major Op. 61	S 12,000	
		18 (Thu) 7:00pm	Mendelssohn Symphony No. 4 A Major Op. 90, Italienische (Italian)	A 10,000 B 8,000	A 5,000 B 4,000
		19 (Fri) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor	C 6,500	C 3,250
		Suntory Hall	María Dueñas, violin	D 5,500	D2,750
	C	Concert No. 2044	Mahler Des Knaben Wunderhorn (The Boy's Magic Horn)	Ordinary S 10,000	
		September	—Rheinlegendchen (Little Rhine Legend)*, Wo die schönen Trompeten blasen (Where the Fair Trumpets Sound)*,		
		26 (Fri) 7:00pm	Das irdische Leben (Earthly Life)*, Das himmlische Leben	B 6,500	B 3,100
		27 (Sat) 2:00pm	(Heavenly Life)*, Urlicht (Primeval Light)*	C 5,400 D 4,300	D 1,500
			Sibelius Four Legends, symphonic poem Op. 22		E 1,000
		NHK Hall	Ryan Bancroft, conductor Thomas Hampson, baritone*		
2025	Α	Concert No. 2046	Stravinsky Symphony of Psalms	Ordinary	Youth
1023	_	October	Mendelssohn Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52,	S 15,000	
10		18 (Sat) 6:00pm	Lobgesang (Hymn of Praise)* Herbert Blomstedt, conductor	A 12,500 B 10,000	
. •		19 (Sun) 2:00pm	Christina Landshamer, soprano*	C 8,000	C 4,000
			Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano* Tilman Lichdi, tenor*	D 6,500 E 4,500	D 3,000 E 2,000
		NHK Hall	Swedish Radio Choir, chorus		
	В	Concert No. 2045	Grieg Aus Holbergs Zeit, suite Op. 40 (Holberg Suite)	Ordinary	
	ы	October	Nielsen Flute Concerto	S 12,000 A 10,000	
		9 (Thu) 7:00pm	Sibelius Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82	B 8,000	
		10 (Fri) 7:00pm		C 6,500	C 3,250 D 2,750
		Suntory Hall	Herbert Blomstedt, conductor Sébastian Jacot, flute	D 5,500	D2,750
	C	Concert No. 2047	Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83	Ordinary	
		October	Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90	S 13,000 A 11,000	
		24 (Fri) 7:00pm		B 8,500	
		25 (Sat) 2:00pm		C 7,000	
			Herbert Blomstedt, conductor	D 5,600 E 3,500	D 2,000 E 1,700
l		NHK Hall	Leif Ove Andsnes, piano	Ordinary	
2025	Α	Concert No. 2048	Messiaen Trois petites liturgies de la Présence Divine (Three Little Liturgies of the Divine Presence)*	S 13,000	
11		November	Holst The Planets, suite Op. 32	A 11,000	A 5,200
		8 (Sat) 6:00pm	, ,	B 8,500 C 7,000	B 4,000 C 3,500
		9 (Sun) 2:00pm	Charles Dutoit, conductor	D 5,600	D 2,000
		NHK Hall	Yu Kosuge, piano* Motoko Oya, ondes martenot* Tokyo Opera Singers, female chorus	E 3,500	E 1,700
	В	Concert No. 2050	Schumann Manfred, incidental music Op. 115—Overture	Ordinary	Youth
	"	November	Mozart Piano Concerto No. 25 C Major K. 503	S 12,000	
		20 (Thu) 7:00pm	R. Strauss Ein Heldenleben, symphonic poem Op. 40 (A Hero's Life)	A 10,000 B 8,000	A 5,000 B 4,000
		21 (Fri) 7:00pm		C 6,500	C 3,250
			Rafael Payare, conductor	D 5,500	D 2,750
		Suntory Hall	Emanuel Ax, piano	Ordina	Voust
	C	Concert No. 2049	The 150th Anniversary of Maurice Ravel's Birth	Ordinary S 13,000	
		November	Ravel Pavane pour une Infante défunte (Pavane for a Dead Princess)	A 11,000	
		14 (Fri) 7:00pm	Ravel Le tombeau de Couperin, suite (The Grave of Couperin) Ravel Daphnis et Chloé, ballet (Daphnis and Chloe)*	B 8,500	B 4,000
		15 (Sat) 2:00pm	•	C 7,000 D 5,600	C 3,500 D 2,000
		NHK Hall	Charles Dutoit, conductor Nikikai Chorus Group, chorus*		E 1,700
1					

A Sat.		n (doors open at 5:00pm) n (doors open at 1:00pm)	B Suntory Hall Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Sat. 2:00pm (doors		
²⁰²⁵ 12	А	Concert No. 2051 November 29 (Sat) 6:00pm 30 (Sun) 2:00pm Program A of the December subscription concerts will be held in November. NHK Hall	Shostakovich Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77 Zemlinsky Die Seejungfrau, fantasy (The Mermaid) Fabio Luisi, conductor Leonidas Kavakos, violin Fujikura Ocean Breaker for Orchestra—in memoriam Pierre Boulez (2025)	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000 Ordinary	S 5,50 A 4,50 B 3,50 C 2,80 D 1,80 E 1,40
	Б	December 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	[Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere] Franck Variations symphoniques for Piano and Orchestra (Symphonic Variations)* Saint-Saëns Symphony No. 3 C Minor Op. 78, Symphonie avec orgue (Organ Symphony) Fabio Luisi, conductor Tom Borrow, piano*	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	
	С	Concert No. 2053 December 12 (Fri) 7:00pm 13 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Chopin Piano Concerto No. 1 E Minor Op. 11 or No. 2 F Minor Op. 21 Nielsen Symphony No. 4 Op. 29, The Inextinguishable Fabio Luisi, conductor The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition, piano	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	
2026	A	Concert No. 2054 January 17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Mahler Symphony No. 6 A Minor, Tragische (Tragic) Tugan Sokhiev, conductor	S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	
	В	Concert No. 2056 January 29 (Thu) 7:00pm 30 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Mussorgsky / Shostakovich Khovanshchina, opera —Dawn over the Moscow River, prelude Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102 Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100 Tugan Sokhiev, conductor Kanon Matsuda, piano	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,00
	С	Concert No. 2055 January 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Debussy Prélude à l'après-midi d'un faune (Prelude to the Afternoon of a Faun) Dutilleux Cello Concerto, Tout un monde lointain (A Whole Distant World) Rimsky-Korsakov The Tale of Tsar Saltan, suite Op. 57 Stravinsky The Firebird, ballet suite (1919 edition) Tugan Sokhiev, conductor Michiaki Ueno, cello	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	
2026	Α	Concert No. 2057 February	Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, Rheinische (Rhenish) Wagner Götterdämmerung, opera—Siegfrieds Rheinfahrt, Siegfrieds Tod und Trauermarsch, Brünnhildes Schlussgesang:	Ordinary S 10,000 A 8,500	

1	Α	January 17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm	Mahler Symphony No. 6 A Minor, Tragische (Tragic)	B 7,600 C 6,000 D 5,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800
		NHK Hall	Tugan Sokhiev, conductor	E 3,000	E 1,400
	В	Concert No. 2056 January 29 (Thu) 7:00pm 30 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Mussorgsky / Shostakovich Khovanshchina, opera —Dawn over the Moscow River, prelude Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102 Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100 Tugan Sokhiev, conductor Kanon Matsuda, piano	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000
	С	Concert No. 2055 January 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Debussy Prélude à l'après-midi d'un faune (Prelude to the Afternoon of a Faun) Dutilleux Cello Concerto, Tout un monde lointain (A Whole Distant World) Rimsky-Korsakov The Tale of Tsar Saltan, suite Op. 57 Stravinsky The Firebird, ballet suite (1919 edition) Tugan Sokhiev, conductor Michiaki Ueno, cello	B 7,600 C 6,000 D 5,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500
26	Α	Concert No. 2057 February 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm	Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, Rheinische (Rhenish) Wagner Götterdämmerung, opera—Siegfrieds Rheinfahrt, Siegfrieds Tod und Trauermarsch, Brünnhildes Schlussgesang: Starke Scheite schichtet mir dort* (Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey, Siegfried's Funeral March, Brünnhilde's Immolation) Philippe Jordan, conductor Tamara Wilson, soprano*	B 6,500 C 5,400 D 4,300	S 5,000 A 4,000 B 3,100
	В	Concert No. 2059 February 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53 Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11 Jakub Hrůša, conductor Josef Špaček, violin	C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
	С	February 13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kodály Variations on a Hungarian Folksong The Peacock Hummel Trumpet Concerto E Major Mussorgsky / Konoe Pictures at an Exhibition, suite Gergely Madaras, conductor Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet	D4,300	S 5,000 A 4,000 B 3,100

Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400

Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750 Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400 Youth

²⁰²⁶ 04	В	Concert No. 2060 April 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm NHK Hall Concert No. 2061 April 16 (Thu) 7:00pm 17 (Fri) 7:00pm Suntory Hall Concert No. 2062 April 24 (Fri) 7:00pm	Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1 Bruckner Symphony No. 9 D Minor Fabio Luisi, conductor Jan Vogler, cello Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622 Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor Fabio Luisi, conductor Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Toyama Divertimento for Orchestra Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000 Ordinary S 12,000 A 10,000 D 5,500 Ordinary S 10,000 A 4,500 Ordinary S 10,000 A 8,500 B 8,500	\$ 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400 Youth \$ 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 Youth \$ 5,000 Youth
		25 (Sat) 2:00pm	Ifukube Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad) Britten Peter Grimes, opera—Four Sea Interludes Op. 33a	D 4,300	D 1,500
²⁰²⁶ 05	Α	NHK Hall Concert No. 2064 May 23 (Sat) 6:00pm 24 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Tatsuya Shimono, conductor Kyohei Sorita, piano Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102 Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25 Michael Sanderling, conductor Christian Tetzlaff, violin Tanja Tetzlaff, cello	E 2,200 Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500
	В	Concert No. 2063 May 14 (Thu) 7:00pm 15 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kazuo Yamada Also sang ein Jüngling, small symphonic poem (Thus Sang a Young Man) Hartmann Concerto funebre (Funereal Concerto)* Sugata Symphonic Overture Op. 6 Hindemith Mathis der Maler, symphony (Matthias the Painter) Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*	Ordinary \$ 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250
	С	Concert No. 2065 May 29 (Fri) 7:00pm 30 (Sat) 2:00pm	Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere] Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550
		NHK Hall	Andris Poga, conductor		
06	A	Concert No. 2067 June 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Wagner Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel (The Mastersingers of Nuremberg—Prelude) Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453 Bartók Concerto for Orchestra Jaap van Zweden, conductor Conrad Tao, piano	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500
	В	Concert No. 2066 June 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Honegger Pastorale d'été, symphonic poem (Summer Pastoral) Berlioz Les nuits d'été, songs Op. 7 (Summer Nights) Ilber Escales (Ports of Call) Debussy La mer, three symphonic sketches (The Sea) Stéphane Denève, conductor Gaëlle Arquez, mezzo soprano	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250
	С	Concert No. 2068 June 19 (Fri) 7:00pm 20 (Sat) 2:00pm	Sibelius Andante festivo Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47 Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44 Tadaaki Otaka, conductor	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500
All performer	s and r	NHK Hall	hIMARI, violin change or cancellation depending on the circumstances.	E 2,200	<u>⊨ 1,000</u>

N響関連のお知らせ

いつでもどこでも、NHKの番組を。





利用登録はこちらから

https://plus.nhk.ip/info/

総合・Eテレの番組を スマホやタブレット・ パソコン・テレビ 二 で



放送から1週間 『何度でも

『1 テレヒでは現透し番組紀間のみ お楽しみいただけます!

受信契約者のお名前と住所を入力すれば すぐにご利用できます。

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

NHKラジオを聴くなら!

NHK ラジオ らじる★らじる

「らじる★らじる」では、聴き逃しが放送終了後1週間何度でも楽しめます。

アプリ ダウンロードは こちらから ↓





伝えるチカラ



- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援!

NHK財団は、

子法人の「NHK交響楽団」と共に、 社会貢献事業を進めていきます。





NHK財団の最新情報はこちらから

NHK こども 音楽クラブ 「NHK こども音楽クラブ」は、 NHK とNHK交響楽団で 実施している出前授業。 全国各地の学校を訪ね ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に 目を輝かせる子どもたち そして、素顔のN響メンバーに 出会えるコンサートです。 出前授業の動画が ホームページで ご覧いただけます



https://www.nhk.or.jp/event/ kodomo-ongaku/ 音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを 与えてくれます。N響はコンサートホールを飛 び出して、さまざまな場所、さまざまな人たち に美しい音色をお届けし、広く社会に貢献し ていきます。

子どもたちの未来を育む

"N響が学校にやってきた"をキャッチフレーズに NHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校 を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響 ほっとコンサート」、N響練習所のある高輪の保育 園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを 伝える「N響といっしょ! 音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで 豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生は、N響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン: 下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨 ヴィオラ: 和田志織 コントラバス: 桑原孝太朗 クラリネット: 白井宏典 打楽器: 菊池幸太郎 (2025年6月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、飲食店、ショッピングセンターで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に密着した活動を行っています。最近は各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マーラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演に外国人留学生のみなさんを招待しています。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等·団友

役員等

理事長

中野谷公一

常務理事

三溝敬志 大曽根 聡子

理事

相川直樹 内永ゆか子 岡田知之 杉山博孝 銭谷眞美 田辺雅泰 團 宏明 毛利 衛

監事

春原雄策 濵村和則

評議員

稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 菅原直 清野智 田中宏暁 檀ふみ 坪井節子

中嶋太一

前田昭雄

上原 静

三浦 惺 山名啓雄 渡邊 修

企画プロモーション部

特別主幹

芸術主幹

西川彰一

事務局

演奏制作部 岩渕一真 丸山千絵

髙木かおり 髙橋 啓 沖 あかね

猪股正幸

森下文典 黒川大亮 野村 歩

経営管理部

告田麻子 三浦七菜子 浅田武志 杉山真知子

今村啓一

技術主幹

事務局

稲川 洋

金沢 孝

小林文行

関 昭枝

中馬 究

出口修平

西村集介

芳賀由明

松崎ユリ

望戸一男

諸岡淳

吉田博志

渡辺 克

渡辺克己

清水永一郎

入江哲之

石井 康 利光敬司

内山弥生 木村英代 徳永匡哉 小倉康平

吉賀亜希 宮崎則匡

目黒重治 山本能寛

トランペット

井川明彦

北村源三

来馬 賢

関山幸弘

津堅直弘

栃本浩規

福井 功

尾澤 勉

団友

マスター

堀 正文

海野義雄

名誉コンサート

コンサートマスター

公門俊之 齋藤真知亜 酒井敏彦

清水謙二 鈴木弘一

田渕彰 田中 裕 鶴我裕子

> 中瀬裕道 永峰高志 根津昭義 堀江 悟

川上久雄 篠崎史紀 前澤均 徳永二男 宮里親弘 堀伝 武藤伸二 山口裕之 村上和邦

ヴァイオリン

窪田茂夫

黒柳紀明

板橋 健 梅澤美保子 大澤 浄 大林修子 大松八路 金田幸男 川上朋子

ヴィオラ

蓬田清重

大久保淑人 小野富士 梯 孝則 河野昌彦 菅沼進二 店村眞積 田渕雅子

中竹英昭

三原征洋 村山 弘 山田雄司

チェロ 岩井雅音 木越 洋

齋藤鶴吉 三戸正秀 銅銀久弥 丹羽経彦 平野秀清 藤本英雄

茂木新緑 コントラバス

井戸田善之 志賀信雄 佐川裕昭 新納益夫

フルート

細川順三

宮本明恭

菅原 潤

オーボエ

青山聖樹 北島章 浜道晁 茂木大輔

クラリネット 磯部周平 加藤明久

横川晴児

ファゴット

岡崎耕治 霧生吉秀 菅原恵子

ホルン

中島大之 樋口哲生 松崎 裕 山田桂三 佛坂咲千生 トロンボーン

伊藤 清 神谷 敏 栗田雅勝 三輪純生

告川武典 テューバ

大野良雄 多戸幾久三 原田元吉

打楽器

有賀誠門 岡田知之 瀬戸川 正 百瀬和紀

ピアノ

本荘玲子

理事長 曽我 健 田畑和宏 野島直樹 日向英実 木田幸紀

森茂雄 今井 環 根本佳則

加納民夫 唐木田信也 吝藤 滋

役員

原武 山崎大樹

フィルハーモニー2025年6月号 | 第97巻 第5号 2025年6月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 TEL:(03) 5793-8111 / FAX:(03) 3443-0278 発行人◎三溝敬志/編集人◎猪股正幸

企画·編集:(-財)NHK財団 取材・編集:(株)アルテスパブリッシング 表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷:佐川印刷株式会社 ◎無断転載・箱制を禁ず



左:重要美術品 埴輪鍬を担ぐ男子 伝群馬県太田市脇屋町出土 古墳時代6世紀 京都国立博物館蔵 右:重要文化財 突線鈕五式銅鐸 滋賀県野洲市小篠原字大岩山出土 弥生時代1~3世紀 東京国立博物館蔵

《Histoire de l'Art du Japon》(『日本美術史』)に掲載された作品などを展示するプロローグ 万国博覧会と日本美術 Ⅱの展示風景。特別展「日本、美のるつぼ」 京都国立博物館(2025. 4/18 プレス内覧会にて撮影)



〈紙版&デジタル版発売中〉

雑誌『目の眼』6·7月号 特集 大阪・関西 美の祭典へ

リレー連載「美の仕事」 土井善晴(料理研究家)

- *紙版&デジタル版 2,420円税込
- *目の眼デジタル読み放題サービス月額880円税込



骨董 古美術の愉しみをつたえるウェブマガジン menomeonline.com

の眼



ベストクラシックス

〈管弦楽〉

名匠×俊英 N響と奏でる名曲の響宴

ロッシーニ 歌劇「ウィリアム・テル」序曲 ブルッフ アイオリン協奏曲第1番ト短調 作品26

ドヴォルザーク

交響曲第8番 卜長調 作品88

2025年10月13日[月·祝]15:00開演

かつしかシンフォニーヒルズモーツァルトホール

[全席指定] S席 ¥7.000 A席 ¥6.500 B席 ¥4.000

岡本誠司=©Yuji Ueno

チケット予約 お問い合わせ かつしかシンフォニーヒルズ ☎03-5670-2233 https://www.k-mil.gr.jp

〒124-0012 東京都葛飾区立石6-33-1 ※京成線青砥駅下車徒歩5分

※税込・未就学児人場不可 ※モーツァルトホール ハルコニー席はステージが見つらい場合や聞きつらい場合があります ※公演内容は都合により変更になる場合があります チケット好評販売中

放送!00年

NHK

2025

10月3日(金) 19:00開演

HK交響楽団

エヴァ・オリカイネン

ヒアノ:ソフィア・リュウ

ラヴェル/ラ・ヴァルス トマジ/トランペット協奏曲

サン・サーンス/ピアノ協奏曲第2番 ト短調作品22 R.シュトラウス/歌劇 [ばらの騎士] 組曲 作品59 TrV227

共催:NHK交響楽団 協賛:岩谷産業

写真提供:NHK 交響楽団

10月5日(日) 16:00開演

シンフォニア・ヴァルソヴィア

##: クリスティアン・アルミンク ピアノ: 反田恭平、小林愛実

NHKSO TOKYO

ベートーベン/歌劇 フィデリオ 作品72 から 序曲 パデレフスキ/創作主題によるポーランド幻想曲 作品19 (ピアノ:反田恭平) ショパン/ピアノ協奏曲第1番 ホ短調作品11 (ピアノ:小林愛実)

©Shumpei Ohsugi

10月20日(月) 19:00開演

チェコ・フィルハ 水煤团

指揮: セミヨン・ビシュコフ

スメタナ/連作交響詩「わが祖国」

©Umberto Nicolett



NHKホール

6月12日(木) 10:00~ ・般販売

U-29席 NHK交響楽団 19:00 21:00 12.000 10.000 9.000 7.000 2.000 シンフォニア・ヴァルソヴィア 16:00 18:00 22,000 19,000 16,000 13,000 11,000 3.000 19:00 20:30 22:000 19:000 16:000 13:000 11:000 3,000 チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

イープラス https://eplus.jp/nhk/ 〈インターネット〉 前売券 チケットぴあ (Pコード 297-370) https://w.pia.jp/t/nhkfes/ 〈インターネット〉

GETTIIS (ゲッティーズ)

●お問い合わせ ハローダイヤル

050-5541-8600 (9:00~20:00 無休)

NHKホームページ https://nhk.jp/event

NHKプロモーションホームページ https://www.nhk-p.co.jp/

2025 夏編

日本最高峰のオーケストラで聴く極上の名曲/ 今年5月にリニューアルオープンの 府中の森で過ごす初夏の午後

指揮:熊倉 優 ピアノ:若林 顕 管弦楽: NHK交響楽団



ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番 八短調 op.18

リムスキー=コルサコフ: 交響組曲「シェエラザード」op.35

2025年7月13日(日)15:30開演(14:45開場) 府中の森芸術劇場 どり一むホール SR8,000m AR7,000m BR6,000m CR5,000m (RB2)

チケットー般販売 3月23日(日)

- Fivo https://fan.pia.jp/fivo/ ※24時間受付 ※ご利用には会員登録が必要です。※チケット料金のほか手数料がかかります。
- チケットふちゅう 042-333-9999 (10:00~17:00) ※休業日は当劇場ホームページをご確認ください。
- チケットの ■チケットぴあ https://w.pia.jp/t/nhksogolden2025/(Pコード:291-469) セブン-イレブン ご予約
 - ■ローソンチケット https://l-tike.com/nhksogolden2025/(Lコード:33825) ローソンミニストップ店内Loppi
 - ■イープラス https://eplus.jp/nhksogolden2025/ ファミリーマート店舗

■お問合せ:サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(平日12:00~15:00) ※チケットの取扱はございません





■ 発売開始: 6月27日[金]10:00am ■ N響定期会員先行発売: 6月23日[月]10:00am

料金(税込)

一 般	
SS	¥8,500
S	¥6,500
Α	¥5,000
В	¥3,500
С	¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

ユースチケット(29歳以下)

SS	¥4,200
S	¥3,200
Α	¥2,500
В	¥1,700
С	¥1,200

■ 前売所

- WEBチケットN響: https://nhkso.pia.jp
- N響ガイド: 0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター: 0570-55-0017 suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: I-tike.com/nhkso

[お問い合わせ]

N響ガイド 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm(営業日はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要 となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。 ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。 ※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。 お断りしています。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット 代金の払い戻しはいたしません。 ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。









∖夏だ! 祭りだ!! /

オーケストラとゆく ちょっとふしぎな 夏の冒険



ナビゲーター : ·龍斎貞鏡 (講談師)



NHKホール(東京・渋谷) ※途中休憩ありの2時間程度の公演です

(開場 2:00pm)





ピアノ:阪田知樹



管弦楽:NHK交響楽団

N響ガイド 0570-02-9502 お問い合わせ

主催:NHK/NHK交響楽団 協力:株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院/株式会社ポケモン

©2025 Pokémon. ©1995-2025 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc. ボケットモンスター・ボケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です

バーンスタイン/歌劇「キャンディード」序曲 グリーグ/劇音楽「ペール・ギュント」<抜粋・講談つき> ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*

メンデルスゾーン/交響曲 第3番 イ短調「スコットランド」から 第2楽章 チャイコフスキー/イタリア奇想曲 <抜粋>

必器をさわって音を出してみよう N響メンバーによる 楽器体験工房

オーケストラの楽器をN響メンバーと一緒に さわって音を出してみよう

さあ、ロビーに集合!

詳しくはN響ホームページ、公式Xでお知らせします

ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」―「ジークフリートのラインの旅」

発売開始 5月16日(金)10:00am (定期会員先行発売:5月12日(月)10:00am)

前売所

◎WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp ◎N響ガイド 0570-02-9502 pia.jp/t/nhkso ©e+ (₁–¬¬¬¬) eplus.jp/nhkso ローソンチケット l-tike.com/nhkso

Follow us on





nhkso.or.jp





「N響ほっとコンサート」公式Xアカウント オープン! ****な情報を発信します



Summer Concert

フームス とシューマンの

指 揮 <u>ダーヴィ</u>ト・アフカム David Afkham, conductor

© Gisela Schenker

東京公演 NHK Symphony Orchestra, Tokyo 主催: NHK / NHK 交響楽団 協賛: 岩谷産業株式会社

管弦楽

NHK 交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

シューマン / ピアノ協奏曲 イ短調 作品54 Schumann Piano Concerto A Minor Op. 54

ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68 Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

2025年 7月18日(金) 7:00pm NHKホール

Friday, July 18, 2025 7:00pm NHK Hall

発売開始 5月16日(金) 10:00am

(定期会員先行発売:5月12日(月)10:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[ユースチケット] S:¥3,600 A:¥2,600 B:¥1,600 C:¥1,000 (29 歳以下) お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502

ピアノ

※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合がございます

nhkso.or.jp

Follow us on



マルティン・ヘルムヒェン Martin Helmchen, piano



© Giorgia Bertazzi

水素で世界を動かせ。





毎年9月にシーズンが開幕する「N響定期公演」を前に行われるのがこのコンサート。

名作揃いの定期公演プログラムから、選りすぐりの聴きどころを75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。 オーケストラは初めてという方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、 とにかく手っ取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。

みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。

定期公演ってなあに?

プロのオーケストラにとって「定期公演」は 活動の中心となる大切なコンサート。N響で は1927年に第1回が行われ、創立100年を 迎える2026年1月には2050回以上の開催 を重ねます、A・B・Cの3つのシリーズごとに 年間9回各2日、合計年間54公演にわたって 世界的な指揮者・ソリストたちと演奏を繰り

2025. 6.29回

4:00pm 休憩のない75分程度の公演です。 NHKホール

指揮:平石章人

クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)

ナビゲーター:大林奈津子

NHKSO Welcome Concert ツェムリンスキー/交響詩「**人魚姫」**-第2楽章(抜粋)(12月A) シベリウス/交響詩「4つの伝説」─「レンミンケイネンの帰郷」(9月C)

ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲(6月A)

グリーグ/組曲「ホルベアの時代から」—「ガヴォット」(10月B)

モーツァルト/クラリネット協奏曲—第2楽章(4月B)

外山雄三/**管弦楽のためのディヴェルティメント**―第3楽章(4月C)

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「**火の鳥**」(1919年版)―「王女たち<mark>の踊り」(1月C)</mark> ホルスト/組曲「惑星」—「木星」(11月A)

終演後のお楽しみ! N 響メンバーのトークコーナー

発売開始日 3月13日(木)10:00am(一般)/3月10日[月]10:00am(定期会員先行)

前売所 ◎WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp

○N響ガイド 0570-02-9502 ○チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+(イープラス) eplus.jp/nhkso ◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

詳細はN響ホームページをご覧ください。 ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※率いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未対学児のご入場はお断りしています。

やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください

| 誘児コーナー | 満2歳~未就学児の方がご利用いただけます(事前予約要/有料)。お申し込み方法等の詳細はN響ホームページをご覧ください。

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 営業時間:10:00am~5:00pm(定休日:土·日·祝日)

~開演時刻まで営業いたします。※電話受付のみの営業となります

主催:NHK/NHK交響楽団



料金(税込/全席指定) NHKホールの全席を1ランクに設定

良席はお早めに!

一般:¥2,000/定期会員:¥1,700

\ 29歳以下はさらにお得 /

ユースチケット(29歳以下):¥1,000

\ お得にみんなでNHKホールに! / ウェルカム・ペアチケット

(2枚1組):¥3,200

※一般·定期会員共通料金





nhkso.or.jp 公演詳細はN響ホームページで公開中

指揮:イェルク・ヴィトマン Jörg Widmann, conductor

ヴァイオリン: 辻 彩奈 Ayana Tsuji, violin

トランペット:ホーカン・ハーデンベルガー Håkan Hardenberger, trumpet

管弦楽: NHK 交響楽団 NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHKSO TOKYO

今年の Music Tomorrowでは、 例年通り尾高賞受賞作品 が披露されるほか、イェルク・ヴィトマンが指揮者として2作の 自作自演を行う。2016年以来2度目の作品への受賞となる権 代敦彦の《時と永遠を結ぶ絃―ヴァイオリンとオーケストラの ための Op. 193》(2023)は、一音の粘り強く峻烈な持続で幕 を開け、聴き手はいつしか温かな歌と滔々たる音の流れに包ま れる。モチーフの扱いと緊密な時間の構築を得意とする権代 の面目躍如である。権代に新作を委嘱した経験をもつヴァイオ リン界の若きホープ、辻彩奈の入魂のソロに期待が集まる。 クラリネット奏者、作曲家、指揮者として世界を飛び回るヴィト マンの2つの近作は、いずれも好評を博し各国で再演を重ね てきた。(死の舞踏)(2022)は、過去の音楽を重要な発想の 源とするヴィトマンの関心を端的に表す一作。かつてリストや サン・サーンスが音楽化した骸骨たちの真夜中の饗宴が、現 代的な装いを施されて鮮烈に蘇る。コロナ禍によるロックダウ ンに、ユートピア的音楽をもって対抗しようとしたヴィトマンが 作曲したのが、「迷宮」サイクルの第6作として位置づけられ るトランペット協奏曲《楽園へ(迷宮VI)》(2021)。 世界的名手 ホーカン・ハーデンベルガーが雄弁に描き出す親密で宥和的 な音響世界はもちろん、ヴィトマンが好んで用いる奏者の移動 や身ぶりにも注目したい。

生と死への意識に貫かれた権代作品と《死の舞踏》双方の響 る根源的なエネルギー、《楽園へ》の穏和で天国的な表 宗教的ヴィジョンによって緩やかに繋がる3作は、聴く人 の意欲を奥底から温めてくれるにちがし

平野貴俊(音楽学·音楽評論)

June 26 (Thursday) 7:00pm / Pre-Concert Talk 6:30pm Tokyo Opera City Concert Hall

2025年6月26日 * 7:00pm 高高質度

尾高賞授賞式・プレト

東京オペラシティ コンサートホール

権代敦彦/時と永遠を結ぶ絃―ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193 (2023) [第72回戸高賞 交貨作品] Gondai / Strings between Time and Eternity for Violin and Orchestra Op. 193 (2023) [The 72nd Otaka Award Work]

Widmann / Dan.

ヴィトマン 死の舞踏(2022) [日本初演] se macabre for Orchestra (2022) Dapan Premiere

ヴィトマン/楽園へ(迷宮VI) ―トランペットとオー -ケストラのための(2021) [H本初演]

Widmann / Towards Paradise (Labyrinth VI) for Trumpet and Orchestra (2021) [Japan Pre

チケット発売中

チケット料金(税込)

- ◎ 一般 | S:4,000円 / A:3,000円 / B:2,000円
- ◎ ユースチケット(29歳以下) | S:2,000円 / A:1,500円 / B:1,000円
- ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
 初回ご利用時に年齢確認のため「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- N響定期会員の方は一般料金の10%割引となります。また、先行発売をご利用いただけます(取り扱いはWEBチケットN響・N響がイドのみ)。
- ・車いす席についてはN署ガイドへお問い合わせください。・N署ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
- 未就学児のご入場はお断りしています
 - ・WEBチケットN響:https://nhkso.pia.jp
 - ・N響ガイド:0570-02-9502
 - ・東京オペラシティチケットセンター:03-5353-9999
 - ・チケットぴあ:pia.jp/t/nhkso ・e+(イープラス):eplus.jp/nhkso ・ローソンチケット: I-tike.com/nhkso



WEBチケッN響

お問い合わせ

N響ガイド:0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm(定休日:土·日·祝日)

- ※東京都内での主催公演開催日は曜日にかかわらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。 ※発売初日の土・日・祝日は10:00am ~3:00pm の営業となります
- ※電話受付のみの営業となります

主催: NHK / NHK 交響楽団

共催:公益財団法人 東京オペラシティ文化財団 助成:公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団 公益財団法人 アフィニス文化財団

nhkso.or.jp | Follow us on









Iwatani

水素で夢を実現。



2025年大阪・関西万博 水素の船から見える未来

時代はカーボンニュートラルへ。その夢に向け、私たちは切り拓いた。 水素をつくり、はこび、つかう。

その一つ一つのチャレンジが実を結び夢への軌跡を描いていく。 2025年、水素エネルギーが大きく動き出す。

水素でつなごう。人と、世界と、そして、夢を。



船の仕組みや ↓ ルートは こちらから



岩谷産業は、 2025年大阪・関西万博を 応援しています。

